

公益社団法人日本薬理学会報告

本報告は平成 27 年度の学術評議員会・通常総会資料を基に作成しています。学会誌の刊行、決算及び収支予算については、会計（事業）年度で提示しています。

【 目 次 】

- I. 学術評議員会及び通常総会報告
- II. 平成 26 年度事業報告
- III. 平成 26 年度決算報告
- IV. 平成 27 年度事業計画
- V. 平成 27 年度収支予算
- VI. 規則の制定，変更等
- VII. 理事会報告
- VIII. 委員会等報告
- IX. 新学術評議員一覧

I. 学術評議員会及び通常総会報告

日 時：平成 27 年 3 月 18 日（水）18 時 10 分～20 時 5 分

場 所：名古屋国際会議場 A 会場（1 号館 2 階 センチュリーホール）（愛知県名古屋市中

議決権を有する構成員数：総会（139 名）、学術評議員会：1,316 名

議決権を有する出席者数：

通常総会：出席者数 130 名（本人出席 77 名，議決権行使 48 名，委任状 5 名）

学術評議員会：出席者数 815 名（本人出席 288 名（うち役員 17 名），委任状 527 名）

議長及び議事録署名人：

通常総会：議長：飯野 正光 署名人：赤羽 悟美，西堀 正洋

学術評議員会：議長：今泉 祐治 署名人：赤羽 悟美，西堀 正洋

付議事項

第 1 号議案 平成 26 年度事業報告及び決算の件

理事長より，配布した資料に基づき平成 26 年度事業報告及び会員の状況が報告された．続いて財務委員長より平成 26 年度決算について貸借対照表，正味財産増減計算書，貸借対照表及び正味財産増減計算書の附属明細書並びに財産目録について説明と報告がなされた．監事より，平成 26 年度公益社団法人日本薬理学会の事業及び決算を監査の結果，適正に処理されていることを確認した旨の監事監査結果が報告された．議長より，平成 26 年度事業報告及び決算について付議され，満場一致で承認，可決した．

第 2 号議案 平成 27 年度事業計画及び収支予算の件

財務委員長より，平成 27 年度事業計画及び予算について説明がなされた．本会議に提示する事業計画及び予算は，平成 26 年 12 月 13 日に開催された理事会で承認され，昨年末に内閣府に提出したものであること，前期理事会における財政改善に向けた取り組みの結果，平成 26 年度決算で改善の兆しが見えた今期は，薬理学会の更なる活性化を目指した事業を行うための予算編成であることが説明された．議長より，平成 27 年度事業計画及び予算について付議され，満場一致で承認，可決した．

第 3 号議案 役員選任の件

理事長より，第 3 号議案の前に，第 6 号議案の第 90 回年会長の件を付議する提案がなされ，理事会は植田 弘師氏（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科・教授）を平成 29 年度第 90 回年会長候補者として選考したことが報告された．議長より，植田 弘師氏を第 90 回年会長に決定する件につき付議され，満場一致で承認，可決した．

続いて，定款第 43 条第 2 項及び定款施行細則第 9 条に則り選出された理事候補者の高橋 健三氏，及び植田 弘師氏の監事辞任により，定款第 24 条第 1 項第 2 号及び同第 28 条第 2 項に則り監事候補者の玉置 俊晃氏を選任する件について付議され，満場一致で承認，可決した．

第 4 号議案 諸規則の件

総務委員長より，1) 副理事長制導入により理事会の継続性を担保することとする定款施行細則の変更，2) 平成 27 年度から英文誌（JPS）全面電子化に伴う海外在住外国籍会員の会費年額を減額することの会費規定附則への追記，3) 常置委員以外の和文誌の編集委員経験者及び常置委員以外の英文誌の Editor を 1 期 2 年のみ，名誉会員，永年会員推薦の際の功績に算入する名誉会員推薦規定運用基準並びに永年会員推薦規定運用基準の変更，4) JPS 優秀論文賞の候補対象論文を過去 3 年間に掲載された原著論文の中で引用回数が多い順に約 10 編を選び，その中から選考する JPS 優秀論文賞規定の変更，並びに学会活動の公正性と信頼性確保のために設置する倫理委員会の運営について定める倫理委員会規定の制定が合わせて付議され，満場一致で承認，可決した．

第 5 号議案 名誉会員及び永年会員の件

理事会が推薦した名誉会員候補者の岩尾 洋，鈴木 勉，本田 一男，松田 敏夫及び宮本 政臣以上 5 氏の平成 27 年度名誉会員への推戴並びに永年会員候補者の伊藤 勝昭，木村 郁子，塩見 浩人，中村 秀雄及び松井 竹史以上 5 氏の平成 27 年度永年会員への推戴の件について付議され，満場一致で承認，可決した．

第 6 号議案 第 90 回年会長の件

第 90 回年会長は，第 3 号議案の前に審議終了．

第 7 号議案 新学術評議員の件

企画教育委員長より，新学術評議員候補者として 39 名を選定したことが審査経過とともに報告された．議長より，平成 27 年度学術評議員に選任する件について付議され，満場一致で承認，可決した．

各種報告

1. 理事会報告が理事長より，常置委員会報告，特別委員会報告が各委員長又は委員よりなされた．ダイバーシティの取組の報告が企画教育委員長より，国際対応の報告が日本学術会議 IUPHAR 分科会委員長よりなされた．
2. 今泉 祐治第 88 回年会長より，平成 27 年の年会の案内及び準備状況が報告された．

II. 平成 26 年度事業報告

1. 学術集会, 講演会等の開催 (定款第 4 条第 1 号)

(1) 年 会

第 87 回 日本薬理学会年会 『復興と創造』 平成 26 年 3 月 19 日～21 日, 東北大学川内萩ホール, 仙台国際センター
年会長: 谷内 一彦 (東北大学・院・医) 参加者 2,310 名 演題数 850 題
(学術評議員 545 名, 一般会員 409 名, 大学院生 261 名, 非会員 217 名, 学部学生 171 名,
名誉会員・永年会員 22 名, 招待演者・共催セミナー関係者・招待者 685 名)
特別講演 9, 受賞講演 7 (江橋節郎賞, 学術奨励賞 3, 西宮機能系基礎医学研究助成基金受賞者記念講演 3),
シンポジウム 183, 一般演題 647 (優秀発表賞対象演題 97, 一般口演 168, ポスター 382)

(2) 地方部会

第 125 回 日本薬理学会近畿部会 会 長: 西堀 正洋(岡山大学・院・医)
平成 26 年 6 月 20 日, 岡山コンベンションセンター(岡山市)
参加者 232 名, シンポジウム 2, 一般演題 64, ポスター 11

第 130 回 日本薬理学会関東部会 会 長: 鈴木 勉 (星薬科大学・薬)
平成 26 年 7 月 5 日, 星薬科大学百年記念館 (東京都品川区)
参加者 353 名, シンポジウム 7, 一般演題 53, ポスター 26

第 65 回 日本薬理学会北部会 会 長: 木村 純子(福島県立医科大学・医)
平成 26 年 9 月 26, 27 日, コラッセふくしま(福島市)
参加者 134 名, 一般演題 62

第 131 回 日本薬理学会関東部会 会 長: 五嶋 良郎(横浜市立大学・医)
平成 26 年 10 月 11 日, 横浜市立大学福浦キャンパス(神奈川県横浜市)
参加者約 200 名, 一般演題 59

第 126 回 日本薬理学会近畿部会 会 長: 岸岡 史郎(和歌山県立医科大学・医)
平成 26 年 10 月 24 日, 和歌山県 JA ビル(和歌山市)
参加者 279 名, 一般演題 68

第 67 回 日本薬理学会西南部会 会 長: 柳原 延章(産業医科大学・医)
平成 26 年 11 月 23 日, 産業医科大学ラマツィーニホール(福岡県北九州市)
参加者 182 名, 一般演題 62, ポスター 16

(3) セミナー等の開催 (年会会期分を除く)

- ・新薬理学セミナー2014 平成 26 年 7 月 5 日, 星薬科大学 (東京都品川区)
『薬物依存研究における最前線-NIDA/NIH からのメッセージ』 世話人: 鈴木 勉 (星薬科大学・薬)
- ・新薬理学セミナー2014 平成 26 年 10 月 24 日, 和歌山県 JA ビル (和歌山市)
『アンドロゲンおよびレチノイド応答の発生薬理: 教育, 研究におけるミュータントマウスの応用』
世話人: 岸岡 史郎(和歌山県立医科大学・医)
- ・公開講座 (第 87 回年会) 平成 26 年 3 月 22 日, 仙台国際センター (宮城県仙台市)
『震災によるこころの病の克服を目指して』 責任者: 谷内 一彦 (東北大学・院・医), 参加者: 約 100 名
- ・公開講座(近畿部会) 平成 26 年 6 月 22 日, 岡山大学 J-ホール (岡山市)
『体のしくみと薬の作り方』 責任者: 西堀 正洋 (岡山大学・院・医), 参加者: 220 名
- ・公開講座(北部会) 平成 26 年 9 月 27 日, コラッセふくしま (福島市)
『漢方医学からみた健康法』 責任者: 木村 純子 (福島県立医科大学・医), 参加者: 92 名

(4) 他学会等との共催学術集会の開催

- ・日本臨床薬理学会との合同シンポジウムの開催
第 87 回 日本薬理学会年会時 平成 26 年 3 月 19 日, 東北大学川内萩ホール (宮城県仙台市)
『血管内皮・平滑筋細胞からみた循環器疾患の治療前線』 オガナイザー: 柳澤 輝行 (東北大学・院・医)
植田真一郎 (琉球大学・院・医)
- 第 35 回 日本臨床薬理学会年会時 平成 26 年 12 月 4 日, ひめぎんホール (愛媛県松山市)
『創薬応用を目指すチャンネル・トランスポーター研究最前線』 オガナイザー: 安西 尚彦 (獨協医科大学・医)
岩本 隆宏 (福岡大学・医)
- ・日本毒性学会との合同シンポジウムの開催
第 87 回 日本薬理学会年会時 平成 26 年 3 月 20 日, 東北大学川内萩ホール (宮城県仙台市)
『iPS 細胞研究の現状と医薬品開発への応用』 オガナイザー: 上野 光一 (千葉大学・院・薬)
千葉 修一 (中外製薬(株)安全性研究部)

(5) 内外の関連学術団体との連携及び協力

- WorldPharma2014 (平成 26 年 7 月 13~18 日 : 南ア共和国/ケープタウン開催) で井上 和秀教授, 貝淵 弘三教授, 金井 好克教授の 3 名のプレナリーレクチャーと, 他 2 件の日本薬理学会推薦のシンポジウムが行われた。日本から約 70 名が参加した。
- WCP2014 に先行して 7 月 13 日にケープタウンで開催された IUPHAR Educational Section の総会選挙で宮田 篤郎教授が同セッションの Councilor に選出された。
- NC-IUPHAR 委員会に免疫薬理学部門が新設され, 石井 優教授 (大阪大学) を推薦し, 承認された。

2. 学会誌等刊行物の刊行 (定款第 4 条第 2 号)

(1) Journal of Pharmacological Sciences の刊行

発行巻号 (部数) 124 巻 1~3 号 (各 1,100 部), 124 巻 4 号 (950 部), 125 巻 1 号 (950 部),
125 巻 2~4 号 (各 900 部), 126 巻 1~4 号 (各 900 部)
124 巻 Supplement (the 87th Annual Meeting) (3,500 部)

	掲載頁数	(篇数)
① Review	290 頁	(32)
② Full Paper	963 頁	(101)
③ Short Communication	62 頁	(14)
④ Index, Announcement, Erratum, etc.	110 頁	
小計	1,425 頁	(147)
⑤ Vol.124 Supplement I	288 頁	
合計	1,713 頁	(147)

(2) 日本薬理学雑誌 (くすりとかからだ/ファーマコロジカ) の刊行

発行巻号 (部数) 143 巻 1~3 号 (各 4,250 部), 143 巻 4 号 (3,400 部),
143 巻 5 号~6 号 (各 3,700 部), 144 巻 1 号 (3,800 部)
144 巻 2 号 (3,850 部), 144 巻 3 号 (3,900 部), 144 巻 4 号 (3,950 部)
144 巻 5 号 (4,050 部), 144 巻 6 号 (4,150 部)

	掲載頁数	(篇数)
① 特集序文	13 頁	(12)
② 特集および総説	342 頁	(65)
③ 実験技術	24 頁	(4)
④ 創薬シリーズ	43 頁	(7)
⑤ 新薬紹介総説	89 頁	(10)
⑥ キーワード解説	25 頁	(11)
⑦ 最近の話題	14 頁	(13)
⑧ サイエンス/リレーエッセイ	12 頁	(12)
⑨ 学会便り/研究室訪問	8 頁	(8)
⑩ アゴラ	24 頁	(12)
⑪ ブルー頁	6 頁	
⑫ 広告	188 頁	
⑬ 綴込み, 目次等上記以外の頁	164 頁	
合計	952 頁	(154)

(3) 会員名簿の発行

所属別会員名簿 1 冊

3. 研究の奨励及び研究業績の表彰（定款第4条第3号）

(1) 第7回日本薬理学会江橋節郎賞授賞

金井 好克（大阪大学大学院医学系研究科 生体システム薬理・教授）

第8回日本薬理学会江橋節郎賞決定

貝淵 弘三（名古屋大学大学院医学系研究科 神経情報薬理・教授）

(2) 第29回日本薬理学会学術奨励賞授賞（所属等の標記は授賞時）

吾郷由紀夫（大阪大学大学院薬学研究科薬物治療学分野）

『セロトニン_{1A}受容体による中枢神経機能制御に関する薬理学的研究』

大久保洋平（東京大学大学院医学系研究科細胞分子薬理学教室）

『代謝型グルタミン酸受容体シグナリングの可視化解析』

宝田 剛志（金沢大学医薬保健研究域薬学系薬物学研究室）

『関節組織における転写因子カスケードの役割と創薬応用』

第30回日本薬理学会学術奨励賞決定（裏表紙）

(3) 第19回 Journal of Pharmacological Sciences 優秀論文賞決定（掲載順）

Association Between Genetic Polymorphisms of the β_1 -Adrenergic Receptor and Sensitivity to Pain and Fentanyl in Patients Undergoing Painful Cosmetic Surgery

Ayako Moriyama, Daisuke Nishizawa, Shinya Kasai, Junko Hasegawa,
Ken-ichi Fukuda, Makoto Nagashima, Ryoji Katoh, and Kazutaka Ikeda
Vol. 121, No. 1, pp. 48 - 57 (2013)

Volume Transmission of Substance P in Striatum Induced by Intraplantar Formalin Injection Attenuates Nociceptive Responses via Activation of the Neurokinin 1 Receptor

Yoki Nakamura, Hiroki Izumi, Takumi Shimizu, Kazue Hisaoka-Nakashima, Norimitsu Morioka,
and Yoshihiro Nakata
Vol. 121, No. 4, pp. 257 - 271 (2013)

Significance of the Vascular Concentration of Angiotensin II-Receptor Blockers on the Mechanism of Lowering Blood Pressure in Spontaneously Hypertensive Rats

Shinji Takai, Denan Jin, Hiroshi Sakonjo, Takayuki Takubo, and Toyofumi Nakanishi
Vol. 123, No. 4, pp. 371 - 379 (2013)

(4) 第87回年会優秀発表賞（演題番号順・20名）

宝田 美佳（金沢大院・医・神経分子標的）

今村菜津子（東京大・薬・薬品作用）

池上めぐみ（星薬科大・薬・薬物治療）

田辺 章悟（大阪大院・医・分子神経科学）

川畑伊知郎（東北大・薬・薬物療法）

舟山 健太（東京大・薬・薬品作用）

白鳥 美穂（九州大・薬・薬理）

宗 可奈子（京都大院・薬・生体機能解析）

西谷 直也（京都大院・薬・生体機能解析）

中屋 亮彦（秋田大・医・情報制御学実験治療学）

石澤 有紀（徳島大・ヘルスバイオサイエンス研・薬理）

西原 弘朗（九州大院・薬・薬効安全性）

山村 彩（金城学院大・薬・薬理）

加藤 靖浩（慶應義塾大・医・薬理）

田中健一郎（慶應義塾大・薬・分析科学）

中村 高志（神戸大・バイオケミカル研究センター・分子薬理）

宮本 理人（徳島大・薬・生理科学解析薬理）

西村 周泰（京都大・iPS研・臨床応用）

樋口 聖（京都大・医・病院臨床研究総合センター）

Printip Wongthai（大阪大院・医・生体システム薬理）

4. 薬理学に関する研究及び調査（定款第4条第4号）

(1) 会員動態の調査

第85回、第86回、第87回と3回の年会等における年齢・性別のアンケート調査結果を会員管理システムに取り込んだ。本アンケートによる会員動態の調査は、今後も継続する。

(2) 薬理学関連のデータベースを構築するNC-IUPHARの会議に出席した会員の提案を受けてGuide to Pharmacologyのデータベースと学会ホームページをリンクした。第88回年会にデータベースキュレーターのDr. Adam Pawsonを招へいし本データベースの講習会をランチョンセミナーとして行う。

5. 内外の関連学術団体との連携及び協力（定款第4条第5号）

(1) 学術集会の共催および連携 上記1.の(4)、(5)を参照

(2) 学術集会の協賛・後援（平成26年年会から平成27年年会前まで）

協 賛

1) 第21回HAB研究機構学術年会	平成26年5月16,17日
2) 第41回日本毒性学会学術年会	7月2~4日
3) 第18回活性アミンに関するワークショップ	8月23日
4) 電気化学会関東支部 第50回学際領域セミナー	9月19日
5) フォーラム2014: 衛生薬学・環境トキシコロジー	9月19,20日
6) CBI(情報計算化学生物)学会2014年大会	10月28~30日
7) 第24回日本循環薬理学会	12月5日
8) 第20回ペプチドフォーラム	平成27年3月13日

後 援

1) 第9回日本分子イメージング学会総会・学術集会	平成26年5月22,23日
2) 第3回国際硫化水素学会	6月4~6日
3) 日本ケミカルバイオロジー学会第9回年会	6月11~13日
4) 国際カルノシン・アンセリン学会2014	8月5~7日
5) 第19回日本病態プロテアーゼ学会学術集会	8月8,9日
6) 第57回「脳の医学・生物学研究会」	8月16日
7) 生体機能と創薬シンポジウム2014	8月28,29日
8) Tokyo Translational Therapeutics Meeting: Homeodynamics in Clocks, Sleep and Metabolism	9月24日
9) 創薬薬理フォーラム第22回シンポジウム	9月25,26日
10) 第8回日本緩和医療薬学会年会	10月3~5日
11) 第24回日本臨床精神神経薬理学会 第44回日本神経精神薬理学会 合同年会	11月20~22日
12) 第7回トランスポーター研究会九州部会	11月22日
13) 第7回排尿障害モデル動物研究会	12月5日
14) 第16回応用薬理シンポジウム	12月5,6日
15) 第9回分子イメージング研究センターシンポジウム	12月17日
16) 被災地支援活動「ヒューマン・ケア心の絆プロジェクト2014」	平成26年度
17) 第58回「脳の医学・生物学研究会」	平成27年1月10日
18) 第44回日本心臓血管作動物質学会	2月6,7日
19) 第6回日本安全性薬理研究会 学術年会	2月20,21日
20) 第24回神経行動薬理若手研究者の集い	3月17日

6. 会議等の開催状況（平成26年年会から平成27年年会前まで）

総 会	平成26年度通常総会	平成26年3月19日	(仙台)
学術評議員会	平成26年度	平成26年3月19日	(仙台)
理 事 会	平成26年度 第3回	平成26年3月20日	(仙台)
	第4回	4月26日	(東京)
	第5回	7月26日	(東京)
	第6回	12月13日	(東京)
	平成27年度第1回	平成27年2月13日	(書面決議)
	第2回	3月17日	(名古屋)
常務理事会&ワーキング	平成26年度第2回	平成26年6月7日	(東京)
WCP2018 組織委員会	平成26年度 第1回	平成26年8月14日	(東京)
総務委員会	平成26年度 第1回	平成26年6月30日	(東京)
	第2回 持ち回り開催	11月5日	(東京)
財務委員会 予算案検討ワーキング	平成26年度 第1回	平成26年11月13日	(東京)
	持ち回り開催	11月12日	(東京)
	会 計 監 査	平成27年1月13日	(東京)
		1月22日, 27日	(東京)
	監 事 監 査	平成27年2月10日	(東京)
編集委員会	平成26年 第1回	平成26年3月20日	(仙台)
	第2回	5月31日	(東京)
	第3回	7月25日	(東京)
研究推進委員会	持ち回り開催		
広報委員会	平成26年 第1回	平成26年3月19日	(仙台)
	第2回	7月12日	(京都)
企画教育委員会	平成27年度 第1回	平成27年1月10日	(東京)
賞等選考委員会	平成26年度 第1回 持ち回り開催	平成26年10月25日	(東京)
年会学術企画委員会	平成26年度第1回 持ち回り開催	平成26年8月23日	(東京)
江橋賞選考委員会	平成26年度 第1回	平成26年11月7日	(東京)
利益相反(COI)委員会	平成26年度 第1回	平成26年6月30日	(東京)
	第2回	11月5日	(東京)

7. 会員状況（平成26年12月31日現在）

会員数および異動状況（下段は前年度との差）

代議員 (正会員に含む)	名誉会員	永年会員	正会員		総数
			学術評議員	一般会員	
139	108	83	1,349	3,184	4,724
±0	+5	+7	-34	-156	-178

新入会者数：416名，退会者数：594名（逝去者，会費未納除籍者含む）

平成26年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

Ⅲ. 平成 26 年度決算報告

独立監査人の監査報告書

平成 27 年 2 月 10 日

公益社団法人 日本薬理学会
理事長 飯野 正光 殿

中村公認会計士事務所
公認会計士 中村 友理香 ㊞

<財務諸表監査>

私は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第 23 条の規定に準じ、公益社団法人日本薬理学会の平成 26 年 1 月 1 日から平成 26 年 12 月 31 日までの平成 26 年度の貸借対照表及び損益計算書（公益認定等ガイドライン I-5(1)の定めによる「正味財産増減計算書」をいう。）並びにその附属明細書並びに財務諸表に対する注記について監査し、併せて、正味財産増減計算書内訳表（以下、これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という。）について監査を行った。

財務諸表に対する理事者の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

私の責任は、私が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、私に財務諸表等に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表等の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、私の判断により、不正又は誤謬による財務諸表等の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、私は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表等の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、理事者が採用した会計方針及びその適用方法並びに理事者によって行われた見積りの評価も含め全体として財務諸表等の表示を検討することが含まれる。

私は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

私は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産、損益（正味財産増減）の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

<財産目録に対する意見>

私は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第 23 条の規定に準じ、公益社団法人日本薬理学会の平成 26 年 12 月 31 日現在の平成 26 年度の財産目録（「貸借対照表科目」、「金額」及び「使用目的等」の欄に限る。以下同じ。）について監査を行った。

財産目録に対する理事者の責任

理事者の責任は、財産目録を、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠するとともに、公益認定関係書類と整合して作成することにある。

監査人の責任

私の責任は、財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているかについて意見を表明することにある。

財産目録に対する監査意見

私は、上記の財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているものと認める。

利害関係

公益社団法人日本薬理学会と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

監 査 報 告 書

公益社団法人 日 本 薬 理 学 会

理事長 飯 野 正 光 殿

平成 27 年 2 月 10 日

公益社団法人 日 本 薬 理 学 会

監事 植 田 弘 師 ㊞

監事 木 村 純 子 ㊞

私たちは、平成 26 年 1 月 1 日から平成 26 年 12 月 31 日までの会計年度における会計及び業務の監査を行い、次のとおり報告する。

1 監査の方法の概要

- 会計監査について、帳簿並びに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて、財務諸表並びに収支計算書の正確性を検討した。
- 業務監査について、理事会及びその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて業務執行の妥当性を検討した。

2 監査意見

- 貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録及び収支計算書は、会計帳簿の記載金額と一致し、法人の収支及び財産の状況を正しく示していると認める。
- 事業報告書の内容は、真実であると認める。
- 理事の業務執行に関する不整の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な過失はないと認める。

貸借対照表

平成26年12月31日現在

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金	298,346	4,570,342	△ 4,271,996
預貯金	25,699,929	12,417,441	13,282,488
未収入金	5,425,328	5,310,117	115,211
前払金	1,963,771	4,007,980	△ 2,044,209
貯蔵品	9,129	12,315	△ 3,186
仮払消費税	0	392,100	△ 392,100
流動資産合計	33,396,503	26,710,295	6,686,208
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
薬理学基金	40,000,000	40,000,000	0
退職給付引当資産	2,284,000	2,374,000	△ 90,000
国際基金	4,476,528	5,592,700	△ 1,116,172
振興基金			
学術講演基金	34,092,141	35,383,544	△ 1,291,403
刊行基金	18,535,627	18,535,627	0
褒賞基金	25,074,679	27,306,152	△ 2,231,473
年会開催資産	0	2,140,004	△ 2,140,004
公開講座開催資産	1,400,028	1,400,033	△ 5
国際情報発信強化資産	2,116,111	2,179,702	△ 63,591
特定資産合計	127,979,114	134,911,762	△ 6,932,648
(2) その他固定資産			
ソフトウェア	995,803	1,094,713	△ 98,910
電話加入権	398,352	398,352	0
保証金	1,572,000	1,572,000	0
投資有価証券	20,136,380	20,085,210	51,170
長期貸付金	458,562	302,302	156,260
その他固定資産合計	23,561,097	23,452,577	108,520
固定資産合計	151,540,211	158,364,339	△ 6,824,128
資 産 合 計	184,936,714	185,074,634	△ 137,920
II 負債の部			
1. 流動負債			
前受金	1,376,840	1,592,360	△ 215,520
未払金	5,509,417	7,955,079	△ 2,445,662
預り金	7,460,345	584,961	6,875,384
賞与引当金	0	205,430	△ 205,430
流動負債合計	14,346,602	10,337,830	4,008,772
2. 固定負債			
退職給付引当金	2,284,000	2,374,000	△ 90,000
固定負債合計	2,284,000	2,374,000	△ 90,000
負 債 合 計	16,630,602	12,711,830	3,918,772
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産	3,516,139	5,719,739	△ 2,203,600
(うち特定資産への充当額)	(3,516,139)	(5,719,739)	△ 2,203,600
2. 一般正味財産	164,789,973	166,643,065	△ 1,853,092
(うち特定資産への充当額)	(122,178,975)	(126,818,023)	△ 4,639,048
正味財産合計	168,306,112	172,362,804	△ 4,056,692
負債及び正味財産合計	184,936,714	185,074,634	△ 137,920

正味財産増減計算書

平成26年1月1日から平成26年12月31日まで

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 特定資産運用益	149,997	213,549	△ 63,552
薬理学基金受取利息	23,652	20,001	3,651
国際基金受取利息	1,398	1,430	△ 32
振興基金受取利息	124,947	192,118	△ 67,171
② 受取会費	55,392,500	56,312,500	△ 920,000
一般会員会費	22,024,500	22,001,500	23,000
学術評議員会費	21,788,000	22,401,000	△ 613,000
賛助会員会費	11,580,000	11,910,000	△ 330,000
③ 事業収益	89,048,035	94,462,218	△ 5,414,183
学術集会費収益	55,053,800	57,648,612	△ 2,594,812
購読料収益	2,344,826	2,807,460	△ 462,634
論文掲載料収益	16,982,504	16,653,730	328,774
論文別刷料収益	3,252,322	5,616,235	△ 2,363,913
広告掲載料収益	11,343,160	11,596,200	△ 253,040
予稿集売上等収益	71,423	139,981	△ 68,558
④ 受取補助金等	13,664,017	5,220,298	8,443,719
学術集会補助金	4,700,000	800,000	3,900,000
指定正味財産からの振替額	8,964,017	4,420,298	4,543,719
⑤ 受取寄付金	16,714,005	17,025,977	△ 311,972
学術集会賛助金	14,550,000	16,025,977	△ 1,475,977
一般寄付金	24,001	1,000,000	△ 975,999
指定正味財産からの振替額	2,140,004	0	2,140,004
⑥ 雑収益	529,368	804,960	△ 275,592
受取利息	59,368	171,960	△ 112,592
雑収益	470,000	633,000	△ 163,000
経常収益計	175,497,922	174,039,502	1,458,420
(2) 経常費用			
① 事業費	152,975,875	150,643,855	2,332,020
給与手当	2,399,257	2,456,053	△ 56,796
法定福利費	389,670	364,198	25,472
退職給付費用	71,550	108,383	△ 36,833
事務所借料	446,356	436,272	10,084
会場費	21,741,337	31,873,810	△ 10,132,473
旅費・通信交通費	14,460,831	4,889,270	9,571,561
印刷費	10,254,684	9,763,778	490,906
会議費	3,940,785	1,681,257	2,259,528
謝金・その他	8,689,212	8,839,425	△ 150,213
懇親会費	8,389,102	6,393,097	1,996,005
編集・刊行費	51,105,829	56,382,351	△ 5,276,522
国際情報発信強化費	7,563,984	3,420,298	4,143,686
学術事業協力費	117,570	99,200	18,370
副賞	1,197,250	1,127,250	70,000
業務委託費	20,726,358	20,691,152	35,206
租税公課	1,387,600	1,997,400	△ 609,800
減価償却費	94,500	120,661	△ 26,161

科目	当年度	前年度	増減
② 管理費	24,375,139	24,367,564	7,575
給与手当	8,429,268	8,540,532	△ 111,264
法定福利費	1,342,197	1,254,460	87,737
退職給付費用	246,450	373,317	△ 126,867
事務所借料	1,540,772	1,509,168	31,604
旅費・通信交通費	3,349,849	3,047,234	302,615
印刷費	565,242	493,395	71,847
会議費	458,048	497,557	△ 39,509
リース料	33,566	277,389	△ 243,823
消耗品費	1,196,969	1,391,459	△ 194,490
支払手数料	1,015,954	808,748	207,206
慶弔費	435,856	293,293	142,563
臨時雇賃金	101,538	82,050	19,488
業務委託費	4,748,620	3,893,062	855,558
租税公課	112,600	153,650	△ 41,050
減価償却費	269,010	428,925	△ 159,915
選挙費	6,700	1,078,285	△ 1,071,585
雑費	522,500	245,040	277,460
經常費用計	177,351,014	175,011,419	2,339,595
評価損益等調整前当期經常増減額	△ 1,853,092	△ 971,917	△ 881,175
基本財産評価損益等			
特定資産評価損益等			
投資有価証券評価損益等			
評価損益等計	0	0	0
当期經常増減額	△ 1,853,092	△ 971,917	△ 881,175
2. 經常外増減の部			
(1) 經常外収益			
經常外収益計	0	0	0
(2) 經常外費用			
經常外費用計	0	0	0
当期經常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 1,853,092	△ 971,917	△ 881,175
一般正味財産期首残高	166,643,065	167,614,982	△ 971,917
一般正味財産期末残高	164,789,973	166,643,065	△ 1,853,092
II 指定正味財産増減の部			
① 受取補助金等			
受取補助金等	8,900,000	7,000,000	1,900,000
受取寄付金	0	2,140,000	△ 2,140,000
特定資産受取利息	421	37	384
② 一般正味財産への振替額			
一般正味財産への振替額	△ 11,104,021	△ 4,420,298	△ 6,683,723
当期指定正味財産増減額	△ 2,203,600	4,719,739	△ 6,923,339
指定正味財産期首残高	5,719,739	1,000,000	4,719,739
指定正味財産期末残高	3,516,139	5,719,739	△ 2,203,600
III 正味財産期末残高	168,306,112	172,362,804	△ 4,056,692

正味財産増減計算書内訳表

平成26年1月1日から平成26年12月31日まで

(単位:円)

	公益目的事業会計				共 通	小 計	収益事業等会計	法人会計	内部取引消去	合 計
	公1	公2	公3	公4						
	学術集会等開催	刊 行	褒 賞	連 携						
I 一般正味財産増減の部										
1. 経常増減の部										
(1) 経常収益										
特定資産運用益						138,171		11,826		149,997
薬理学基金受取利息					11,826	11,826		11,826		23,652
国際基金受取利息				1,398		1,398				1,398
振興基金受取利息	54,430	28,513	42,004			124,947				124,947
受取会費						27,696,250		27,696,250		55,392,500
一般会員会費					11,012,250	11,012,250		11,012,250		22,024,500
学術評議員会費					10,894,000	10,894,000		10,894,000		21,788,000
賛助会員会費					5,790,000	5,790,000		5,790,000		11,580,000
事業収益						89,048,035				89,048,035
学術集会費収益	55,053,800					55,053,800				55,053,800
購読料収益		2,344,826				2,344,826				2,344,826
論文掲載料収益	1,893,000	15,089,504				16,982,504				16,982,504
論文別刷料収益		3,252,322				3,252,322				3,252,322
広告掲載料収益		11,343,160				11,343,160				11,343,160
予稿集売上等収益	58,000	13,423				71,423				71,423
受取補助金等						13,664,017				13,664,017
学術集会補助金	4,700,000					4,700,000				4,700,000
指定正味財産からの振替額	1,400,033	7,563,984				8,964,017				8,964,017
受取寄付金						16,690,004		24,001		16,714,005
学術集会賛助金	14,550,000					14,550,000				14,550,000
一般寄付金						0		24,001		24,001
指定正味財産からの振替額	2,140,004					2,140,004				2,140,004
雑収益						31,006		498,362		529,368
受取利息	2,644				28,362	31,006		28,362		59,368
雑収益						0		470,000		470,000
経常収益計	79,851,911	39,635,732	42,004	1,398	27,736,438	147,267,483	0	28,230,439	0	175,497,922
(2) 経常費用										
事業費										
給与手当	1,575,523	282,308	541,426			2,399,257				2,399,257
法定福利費	259,780	43,297	86,593			389,670				389,670
退職給付費用	47,700	7,950	15,900			71,550				71,550
事務所借料	298,000	49,000	99,356			446,356				446,356
会場費	21,741,337					21,741,337				21,741,337
旅費・通信交通費	12,436,385	518,606	505,840	1,000,000		14,460,831				14,460,831
印刷費	10,254,684					10,254,684				10,254,684
会議費	3,871,563		69,222			3,940,785				3,940,785
謝金・その他	8,188,047		501,165			8,689,212				8,689,212
懇親会費	8,389,102					8,389,102				8,389,102
編集・刊行費		51,105,829				51,105,829				51,105,829
国際情報発信強化費		7,563,984				7,563,984				7,563,984
学術事業協力費				117,570		117,570				117,570
副 賞			1,197,250			1,197,250				1,197,250
業務委託費	18,772,338	1,954,020				20,726,358				20,726,358
租税公課	1,026,870	360,730				1,387,600				1,387,600
減価償却費	94,500					94,500				94,500
事業費計	86,955,829	61,885,724	3,016,752	1,117,570	0	152,975,875	0	0	0	152,975,875
管理費										
給与手当							8,429,268			8,429,268
法定福利費							1,342,197			1,342,197
退職給付費用							246,450			246,450
事務所借料							1,540,772			1,540,772
旅費・通信交通費							3,349,849			3,349,849
印刷費							565,242			565,242
会議費							458,048			458,048
リース料							33,566			33,566
消耗品費							1,196,969			1,196,969
支払手数料							1,015,954			1,015,954
慶弔費							435,856			435,856
臨時雇賃金							101,538			101,538
業務委託費							4,748,620			4,748,620
租税公課							112,600			112,600
減価償却費							269,010			269,010
選挙費							6,700			6,700
雑 費							522,500			522,500
管理費計							24,375,139			24,375,139
経常費用計	86,955,829	61,885,724	3,016,752	1,117,570	0	152,975,875	0	24,375,139	0	177,351,014
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 7,103,918	△ 22,249,992	△ 2,974,748	△ 1,116,172	27,736,438	△ 5,708,392	0	3,855,300	0	△ 1,853,092
基本財産評価損益等										
特定資産評価損益等										
投資有価証券評価損益等										
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	△ 7,103,918	△ 22,249,992	△ 2,974,748	△ 1,116,172	27,736,438	△ 5,708,392	0	3,855,300	0	△ 1,853,092
2. 経常外増減の部										
(1) 経常外収益										0
中科目別記載										0
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用										0
中科目別記載										0
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額										
当期一般正味財産増減額	△ 7,103,918	△ 22,249,992	△ 2,974,748	△ 1,116,172	27,736,438	△ 5,708,392	0	3,855,300	0	△ 1,853,092
一般正味財産期首残高						102,372,852	0	64,270,213	0	166,643,065
一般正味財産期末残高						96,664,460	0	68,125,513	0	164,789,973
II 指定正味財産増減の部										
受取補助金等	1,400,000	7,500,000				8,900,000	0	0	0	8,900,000
特定資産受取利息	28	393				421	0	0	0	421
一般正味財産への振替額										
一般正味財産への振替額	△ 3,540,037	△ 7,563,984				△ 11,104,021	0	0	0	△ 11,104,021
当期指定正味財産増減額	△ 2,140,009	△ 63,591				△ 2,203,600	0	0	0	△ 2,203,600
指定正味財産期首残高	3,540,037	2,179,702				5,719,739	0	0	0	5,719,739
指定正味財産期末残高	1,400,028	2,116,111				3,516,139	0	0	0	3,516,139
III 正味財産期末残高						100,180,599		68,125,513	0	168,306,112

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券は、償却原価法（定額法）による。

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

貯蔵品は1冊を1円として評価している。

(3) 固定資産の減価償却の方法

定額法による。

(4) 引当金の計上基準

・賞与引当金

職員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込み額のうち当事業年度に帰属する額を計上している。

・退職給付引当金

職員の退職金の支給に備えるため、期末自己都合要支給額から中退共より支給される金額を控除した金額を計上している。

(5) リース取引の処理方法

会計基準適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引は、引き続き通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっている。

(6) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は次のとおりである。

特定資産

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
薬理学基金	40,000,000	0	0	40,000,000
退職給付引当資産	2,374,000	0	90,000	2,284,000
国際基金	5,592,700	0	1,116,172	4,476,528
振興基金				
学術講演基金	35,383,544	0	1,291,403	34,092,141
刊行基金	18,535,627	0	0	18,535,627
褒賞基金	27,306,152	0	2,231,473	25,074,679
年会開催資産	2,140,004	0	2,140,004	0
公開講座開催資産	1,400,033	1,400,028	1,400,033	1,400,028
国際情報発信強化資産	2,179,702	7,500,393	7,563,984	2,116,111
合 計	134,911,762	8,900,421	15,833,069	127,979,114

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は次のとおりである。

特定資産

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
薬理学基金	40,000,000	0	(40,000,000)	0
退職給付引当資産	2,284,000	0	0	(2,284,000)
国際基金	4,476,528	0	(4,476,528)	0
振興基金				
学術講演基金	34,092,141	0	(34,092,141)	0
刊行基金	18,535,627	0	(18,535,627)	0
褒賞基金	25,074,679	0	(25,074,679)	0
公開講座開催資産	1,400,028	(1,400,028)	0	0
国際情報発信強化資産	2,116,111	(2,116,111)	0	0
合 計	127,979,114	(3,516,139)	(122,178,975)	(2,284,000)

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

一般会計 (単位:円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
ソフトウェア	2,060,100	1,064,297	995,803
合 計	2,060,100	1,064,297	995,803

5. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	帳簿価額	時 価	評価損益
国 債	70,136,380	70,448,394	312,014
合 計	70,136,380	70,448,394	312,014

6. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

(単位:円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
国際情報発信強化補助金	日本学術振興会	2,179,702	7,500,000	7,563,591	2,116,111	指定正味財産
科学研究費公開講座補助金	日本学術振興会	1,400,033	1,400,000	1,400,005	1,400,028	指定正味財産
仙台市コンベンション助成金第87回年会	(公財)仙台観光コンベンション協会	0	1,000,000	1,000,000	0	
仙台市シヤトルバス助成金第87回年会	(公財)仙台観光コンベンション協会	0	500,000	500,000	0	
研究助成基金(第87回年会)	福田記念医療技術振興財団	0	650,000	650,000	0	
国際交流助成金(第87回年会)	テルモ科学技術振興財団	0	400,000	400,000	0	
海外学者招聘助成金(第87回年会)	内藤記念科学技術振興財団	0	600,000	600,000	0	
研究助成基金(第87回年会)	公益信託加藤記念難病研究助成基金	0	500,000	500,000	0	
学術会議等開催支援(第65回北部会)	福島市	0	300,000	300,000	0	
学術会議等開催支援(第125回近畿部会)	(一財)積善会	0	270,000	270,000	0	
学術会議等開催支援(第125回近畿部会)	(公財)岡山医学振興会	0	150,000	150,000	0	
学術会議等開催支援(第126回近畿部会)	和歌山県保険医協会	0	30,000	30,000	0	
学術会議等開催支援(第67回西南部会)	(一財)産栄会	0	100,000	100,000	0	
北九州市MICE開催助成金(第67回西南部会)	西日本産業貿易コンベンション協会	0	200,000	200,000	0	
合 計		3,579,735	13,600,000	13,663,596	3,516,139	

7. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

内 容	金 額
経常収益への振替額	
目的達成による指定解除(受取補助金)	8,964,017
目的達成による指定解除(受取寄付金)	2,140,004

附属明細書

1 基本財産及び特定資産の明細

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は次のとおりである。

特定資産

(単位:円)

科 目	資産の種類	期首帳簿価額	当期増加額	当期減少額	期末帳簿価額
薬理学基金	投資有価証券・第316回利付国債	20,000,000	0	20,000,000	0
	投資有価証券・第118回利付国債	0	20,000,000	0	20,000,000
	定期預金(三菱東京UFJ・本郷)	20,000,000	0	0	20,000,000
退職給付引当資産	ゆうちょ通常貯金	2,374,000	0	2,374,000	0
	普通預金(みずほ・本郷)	0	2,284,000	0	2,284,000
国際基金	定期預金(三菱東京UFJ・本郷)	5,592,700	0	5,592,700	0
	普通預金(三菱東京UFJ・本郷)	0	4,476,528		4,476,528
振興基金					
学術講演基金	投資有価証券・第81回利付国債	20,000,000	0	20,000,000	0
	投資有価証券・第341回利付国債	0	20,000,000	0	20,000,000
	普通預金(みずほ・本郷)	5,804,915	0	5,052,774	752,141
	ゆうちょ定期貯金	7,626,000		7,626,000	0
	ゆうちょ通常貯金	1,952,629	0	1,952,629	0
	定期預金(三菱東京UFJ・本郷)	0	13,340,000	0	13,340,000
刊行基金	定期預金(みずほ・本郷)	10,000,000	0	0	10,000,000
	普通預金(みずほ・本郷)	8,535,627	0	0	8,535,627
褒賞基金	定期預金(三菱東京UFJ・本郷)	7,747,300	0	7,747,300	0
	普通預金(みずほ・本郷)	9,558,852	0	9,558,852	0
	普通預金(三菱東京UFJ・本郷)	0	5,074,679	0	5,074,679
	投資有価証券・第88回利付国債	10,000,000	0	0	10,000,000
	ゆうちょ定期貯金	0	10,000,000	0	10,000,000
年会開催資産	普通預金	2,140,004	0	2,140,004	0
公開講座開催資産	普通預金	1,400,033	1,400,028	1,400,033	1,400,028
国際情報発信強化資産	普通預金	2,179,702	7,500,393	7,563,984	2,116,111
	特定資産計	134,911,762	84,075,628	91,008,276	127,979,114

2 引当金の明細

賞与引当金

(単位:円)

科 目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
賞与引当金	205,430	0	205,430	0	0

退職給付引当金

(単位:円)

科 目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	2,374,000	0	0	90,000	2,284,000

財 産 目 録

平成26年12月31日現在

(単位:円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金 額		
(流動資産)	現金	手元保管	運転資金として	298,346	
	預貯金	普通預金・三菱東京UFJ銀行本郷支店	運転資金として	7,307,219	
		普通預金・みずほ銀行本郷支店	運転資金として	9,204,085	
		ゆうちょ銀行通常貯金	運転資金として	1,341,761	
		ゆうちょ銀行振替貯金	運転資金として	7,846,864	
		<現金・預貯金計>			25,998,275
	未収入金	収納代行会社	会費収納代行会社の年度末の残高である	724,000	
		一般会員会費 (51名分)	規則で定められた会員の要支払会費額である	327,500	
		学術評議員会費(74名分)	同上	1,140,000	
		部会補助金等	学術集会事業の未収分である	227,000	
		購読料	刊行事業の未収分である	56,000	
		掲載料	同上	1,233,680	
		論文別刷料	同上	156,168	
		広告掲載料	同上	1,550,880	
		バックナンバー売上金	既刊雑誌の売上未収分である	10,100	
	<未収入金計>			5,425,328	
	前払金	第88回年会	年会開催事業への学会交付金である	1,900,000	
		会議室料等	公益目的事業の委員会会議室の予約料である	63,771	
<前払金計>			1,963,771		
貯蔵品	既刊誌(2013, 2014年)	既刊雑誌の在庫数である	9,129		
<貯蔵品計>			9,129		
流動資産合計			33,396,503		
(固定資産)	薬理学基金	投資有価証券第118回利付国債	運用益を公益目的事業と管理目的の財源として使用している	20,000,000	
特定資産	定期預金	定期預金・三菱東京UFJ銀行本郷支店		20,000,000	
		<薬理学基金計>			40,000,000
	退職給付引当資産	普通預金・みずほ銀行本郷支店	退職給付引当金見合の引当資産として管理している	2,284,000	
		<退職給付引当資産計>			2,284,000
	国際基金	普通預金・三菱東京UFJ銀行本郷支店	海外の学会との連携事業の原資である	4,476,528	
	<国際基金計>			4,476,528	
	振興基金	学術講演基金	投資有価証券第341回利付国債	科研費補助金を受けないで開催する市民公開講座, 及び新薬理学セミナー開催事業等の原資である	20,000,000
			定期預金・三菱東京UFJ銀行本郷支店		13,340,000
			普通預金・みずほ銀行本郷支店		752,141
	<学術講演基金計>			34,092,141	
	刊行基金	定期預金・みずほ銀行本郷支店	刊行事業, 薬理学に関する研究及び調査事業の原資である	10,000,000	
		普通預金・みずほ銀行本郷支店		8,535,627	
	<刊行基金計>			18,535,627	
	褒賞基金	投資有価証券第88回利付国債	研究業績を表彰する事業の原資である	10,000,000	
		ゆうちょ定期貯金		10,000,000	
		普通預金・三菱東京UFJ銀行本郷支店		5,074,679	
	<褒賞基金計>			25,074,679	
	公開講座開催資産		科研費の補助金とその利息である	1,400,028	
<公開講座開催資産計>			1,400,028		
国際情報発信強化資産		科研費の補助金である	2,116,111		
<国際情報発信強化資産計>			2,116,111		
<特定資産合計>			127,979,114		

そ の 他 固 定 資 産	ソフトウェア	会員管理システム	(共用財産)	995,803
			うち公益目的事業財産15%	149,370
			うち管理目的として使用する財産85%	846,433
	電話加入権	電話回線 3台	(共用財産)	398,352
			うち公益目的事業財産25%	99,587
			うち管理目的として使用する財産75%	298,765
	保 証 金	(株)学会センタービル	(共用財産)	1,572,000
		うち公益目的事業財産25%	393,000	
		うち管理目的として使用する財産75%	1,179,000	
投資有価証券	第113回利付国債	公益目的事業及び管理目的として使用する資産である	20,136,380	
長期貸付金	IUPHAR2018	日本臨床薬理学会との連携機構に貸し付けたIUPHAR2018準備費用である	458,562	
		<その他固定資産計>	23,561,097	
固 定 資 産 合 計				151,540,211
資 産 合 計				184,936,714
(流動負債)	前 受 金	2015, 2016年一般会員会費(18名分)	公益目的事業及び管理目的の業務に使用する次年度及び次々年度会費である.	131,000
		2015年学術評議員会費(3名分)		45,000
		2015年部会抄録掲載料(267題分)	次年度刊行雑誌の抄録掲載料及び広告掲載料等である	801,000
		2015年広告掲載料等		399,840
			<前受金計>	1,376,840
	未 払 金	福田商店代理店委託費	学会誌の広告代理店委託費である	299,376
		社会保険料 業務委託費等	事業主負担分 刊行事業の委託先である(株)金芳堂の特別業務委託費, 及び会計監査費用である	393,491 4,566,550
		消費税	公益目的事業の消費税である	250,000
			<未払金計>	5,509,417
	預 り 金	職員他源泉所得税	職員給与と学術集会開催事業の謝金の源泉所得税である	290,959
職員社会保険料 第88回年会参加費等		職員から預った社会保険料である 第88回年会の参加登録費, 掲載料等である	284,495 6,884,891	
		<預り金計>	7,460,345	
流 動 負 債 合 計				14,346,602
(固定負債)	退職給付引当金	職員に対するもの	職員2名に対する退職金の支払いに備えたもの	2,284,000
			<退職給付引当金計>	2,284,000
固 定 負 債 合 計				2,284,000
負 債 合 計				16,630,602
正 味 財 産				168,306,112

IV. 平成 27 年度事業計画

平成 26 年度事業計画の重要な課題でありました Journal of Pharmacological Sciences (JPS) と日本薬理学雑誌 (日薬理誌) の二誌の委託先変更は順調に進行いたしました。平成 27 年 1 月から JPS は冊子体を廃止し全面電子ジャーナル化を行います。また事務局に関しては、理事会の継続性担保の方策を今後整備すべきであること、第 18 回国際薬理学臨床薬理学会議 (WCP2018) の京都開催を 4 年後に控えていること、出版経費の削減により財政状況が好転する見込みになったことなどを勘案して、外部委託は平成 31 年 (2019 年) まで先延ばしすることとしました。平成 27 年度は、学会の使命である薬理学の振興によって学術文化の発展に寄与するため、学会活動の更なる活性化を目指すことを目標とします。学術集会については、従来通り活発な活動を継続し、女性や若手研究者そして企業研究者の積極的な参画を促すとともに、中長期的な視点に立ったプログラム構成を企画できる体制を確立して行きたいと考えています。さらに WCP2018 を成功させるためには、日本臨床薬理学会をはじめとした国内学会と協力しながら、国際薬理学連合 (IUPHAR) およびアジア・オセアニア各国とも連携して、学会のグローバル化をさらに推進していく必要があります。これに関連して、米国と英国の薬理学会との新たな連携も模索して行きます。学会機関誌については、編集委員会ならびに広報委員会を中心に更なる質の向上に尽力します。特に、JPS の国際誌としてのレベルアップと学会ホームページの充実を一層進めてまいります。

平成 27 年度の事業計画では、本会の更なる発展を目指したいと考えておりますので、会員の皆様のご理解と一層のご支援ご協力をお願いいたします。

理事長 飯野 正光

1 薬理学研究の進展及び薬理学研究者育成のための学術集会及び講演会等の開催事業 (公益目的事業 1)

(1) 年会の開催

第 88 回年会は「医薬科学立国への革新 For the Next Innovation in Medical Science and Technology」をテーマに、新たな薬物治療ターゲットと薬理学新領域の開拓、企業研究者の視点からの薬理学、若手研究者の育成、男女共同参画の推進、学会の国際化等の魅力ある企画を立てている。プレナリーレクチャーには 2012 年ノーベル化学賞受賞者の Dr. Brian K. Kobilka を招へいしている。また、内外の研究者各 5 名がそれぞれ特別講演を行う。年会企画シンポジウム 10 件、公募シンポジウム 42 件、ミニシンポジウム 4 件、ワークショップ 7 件等を計画している。

- ・第 88 回 日本薬理学会年会 年会長：今泉 祐治 (名古屋市立大学・院・薬)

平成 27 年 3 月 18 日～20 日 名古屋国際会議場

(2) 地方部会の開催

6 回の地方部会を開催する。ランチョンセミナー等多彩な企画を予定している。

- ・第 127 回 日本薬理学会近畿部会 会長：稲垣 直樹 (岐阜薬科大学・薬)

平成 27 年 6 月 26 日 長良川国際会議場

- ・第 132 回 日本薬理学会関東部会 会長：坂上 宏 (明海大学・歯)

平成 27 年 7 月 4 日 明海大学浦安キャンパス

- ・第 66 回 日本薬理学会北部会 会長：服部 裕一 (富山大学・院・医)

平成 27 年 9 月 18 日 富山国際会議場

- ・第 133 回 日本薬理学会関東部会 会長：岡 淳一郎 (東京理科大学・薬)

平成 27 年 10 月 10 日 柏の葉カンファレンスセンター

- ・第 128 回 日本薬理学会近畿部会 会長：前田 定秋 (摂南大学・薬)

平成 27 年 11 月 20 日 千里ライフサイエンスセンター

- ・第 68 回 日本薬理学会西南部会 会長：乾 誠 (山口大学・院・医)

平成 27 年 11 月 21 日 海峡メッセ下関

(3) 市民公開講座の開催

科学的で正確な薬理学的知識に基づいて、薬物に関する正しい知識を国民に対して広めること及び薬理学の社会的重要性を国民に広く知ってもらうための啓発活動の一環として年会、地方部会と連動して 3 回の市民公開講座を開催する予定である。

- ・公開講座 (第 88 回年会) 平成 27 年 3 月 21 日、中電ホール (愛知県名古屋市)

『時と睡眠と薬』 講師：大戸 茂弘 (九州大学)、柴田 重信 (早稲田大学)、早野順一郎 (名古屋市立大学)

- ・地方部会に合わせて 2 回開催の予定

(4) 新薬理学セミナーの開催

新薬理学セミナーは、講演や実習を通じて会員の薬理学に関する知識や技術の向上を図るとともに、会員間の人材交流の場を提供することを目的とする。地方部会活性化の一助とすべく、春季ならびに秋季に開催される部会と連動して開催する。開催日時は部会開催の前後日とし、会場は部会長が所属する大学・機関の施設（講堂、教室、実習室、研究室等）や近郊施設を利用する。本セミナーは、会員、特に若手会員のキャリア開発を支援することにより、薬理学研究の益々の発展に資する意義ある企画である。

- ・新薬理学セミナー2015（北部会） 平成 27 年 9 月 19 日 世話人：服部 裕一（富山大学・院医・教授）
『炎症を基盤病態とする疾病に対する新たな創薬研究への挑戦（仮題）』
- ・新薬理学セミナー2015（西南部会） 平成 27 年 11 月 21 日 世話人：乾 誠（山口大学・院医・教授）
『分子の構造・機能を X 線と電子線で見ると』

2 薬理学に関する学理及び応用の研究についての知識の普及を目的とし、学会誌等を刊行する事業（公益目的事業 2）

- (1) Journal of Pharmacological Sciences は 2015 年より全面電子化され、オープンアクセス誌として刊行される。
- (2) 日本薬理学雑誌（くすりとかからだ／ファーマコロジー）の刊行
 - ・2015 年刊行予定：145 巻 1～6 号，146 巻 1～6 号 計 12 冊
- (3) 薬理学に関する研究及び調査
 - ・第 88 回年会において Guide to Pharmacology のデータベース講習会を行う。英国からデータベースキュレーター Dr. Adam Pawson が来日して説明を行うが、その模様を動画に撮影し、後日会員向けに配信する。
 - ・薬理学パンフレットに、新たな知見を追録する。
- (4) 会員相互の情報交換のために 8 月に会員名簿を発行する。

3 優れた業績をあげた研究者の表彰及び研究の一層の飛躍を期待した研究奨励のために、各賞を設置し、研究者と研究業績を表彰する事業（公益目的事業 3）

- (1) 江橋節郎賞
日本薬理学会名誉会員故江橋節郎先生の生命科学への貢献を末永く顕彰するため、江橋節郎賞を創設し、独創的、飛躍的な業績をあげ、薬理学の進歩に大きく貢献した研究者に授与する。今後は、研究の発展途上にある若手研究者にも積極的に授賞の機会を与える方向で推薦、選考を行う。
 - ・第 8 回江橋節郎賞受賞者貝淵 弘三教授（名古屋大学・院・医）の受賞講演は、第 88 回年会二日目の平成 27 年 3 月 19 日に行われる。
 - ・第 9 回江橋節郎賞は 5 月末日までに募集の公告をし、推薦の締切は 8 月末日、江橋節郎賞選考委員会の選考を経て理事会で決定する。
- (2) 学術奨励賞
薬理学の進歩に寄与する顕著な研究を発表し、将来発展の期待される研究者に学術奨励賞を授与する。
 - ・第 30 回学術奨励賞受賞者 3 名の受賞講演は、第 88 回年会二日目の平成 27 年 3 月 19 日に行われる。
 - 小山 隆太（東京大学大学院薬学系研究科薬品作用学）
『乳幼児脳の神経回路形成機構の解明』
 - 白川 久志（京都大学大学院薬学研究科生体機能解析学）
『グリア細胞の活性化状態を制御するカチオンチャネルに関する分子薬理学的研究』
 - 村田 幸久（東京大学大学院農学生命科学研究科放射線動物科学）
『炎症抑制機構の解明と病態治療への応用』
 - ・第 31 回学術奨励賞は 5 月末日までに募集の公告をし、推薦の締切は 8 月末日、賞等選考委員会の選考を経た 3 件以内の候補者について理事会が決定する。
- (3) JPS 優秀論文賞
過去 3 年間に JPS に掲載された論文の中で引用回数が多い順に毎年約 10 編の中から特に優れたものを選出し、その著者に JPS

優秀論文賞を授与する。

- ・第19回 JPS 優秀論文賞受賞3編の授与式は第88回年会二日目の平成27年3月19日に行われる。
- ・第20回 JPS 優秀論文賞（本賞授賞の趣旨に則り）3編以内を決定する。

(4) 年会優秀発表賞

年会学術集会への優れた発表を促し、学問的情報発信の場としての役割を高めるために第88回年会で一般演題の中から優秀な発表に対して、10～20件の年会優秀発表賞を授与する。

4 薬理学及びわが国学術文化の進展・発展への寄与を目的とした、内外の関連学術団体との連携及び協力事業 (公益目的事業4)

(1) 日本学術会議との連携

日本学術会議協力学術研究団体の一員である本会は、日本学術会議国際対応分科会の活動として国際連携を推進する。

(2) 生物科学学会連合との連携

加盟団体と情報を共有して「生物科学」の健全な発展に協力するために、定例会議に出席する。

(3) 日本臨床薬理学会、日本生理学会と連携して、それぞれの年会で共催シンポジウムを開催する。

- ・第17回日本薬理学会・日本臨床薬理学会共催シンポジウム

平成27年3月18日 名古屋国際会議場 第88回日本薬理学会年会時

『痛風・尿酸代謝研究 最近の進歩：From Bench to Bedside』 オーガナイザー：安西 尚彦（獨協医科大学）
笹栗 俊之（九州大学・医）

平成27年 第36回日本臨床薬理学会年会時

- ・日本薬理学会・日本生理学会共催シンポジウム

平成27年3月19日 名古屋国際会議場 第88回日本薬理学会年会時

『心血管カチオンチャンネル研究の最前線』 オーガナイザー：西田 基宏（岡崎統合バイオサイエンスセンター）
Jeffery D. Molkenin (Univ. of Cincinnati, USA)

(4) IUPHAR との連携及び国際薬理・臨床薬理大会 (WorldPharma)

日本薬理学会の国際的な発言力を増すために、パリで開催される Nomenclature Committee (NC-IUPHAR) に平成24年度からキナーゼ研究の分野で貝淵 弘三教授(名古屋大学)が、トランスポーター研究の分野で金井 好克教授(大阪大学)が参加している。新たに免疫薬理学分野の委員として石井 優教授(大阪大学)を推薦することを決定した。

5 その他

1 会 員

- ・平成26年度末の会員数は平成25年度末の会員数4,902名から更に減少する見込みである。減少の要因は18歳人口減少による入会者数の減少と団塊の世代の退職に伴う退会者数の増加による。少しでも長く会員を継続してもらえよう、シニア割引制度を創設して、平成27年度会費から適用する。また、英文ホームページを充実させ、海外からの入会申請の利便性を図る。

2 業務執行体制の整備と強化

- ・代表理事1名、業務執行理事3名による執行体制で、常務理事会を開催し様々な課題に取り組んでいる。理事会の継続性担保を目的として副理事長制を導入する。

3 会員及び社会に向けて

- ・倫理委員会規定を制定し、科学者の行動規範に反する不正行為の防止に取り組んでいる。「雑誌投稿」、「集会発表」、「役員就任資格」それぞれの利益相反ポリシーと運用細則を策定し、本会で発表される研究の透明性を確保し適正な管理に務めている。更なる周知・徹底のため、年会でCOIに関する教育シンポジウムを開催する。

4 事務局体制について

- ・平成27年4月に事務局業務全般の外部委託を予定していたが、WCP2018開催後の2019年まで事務局の存続を決定した。職員の嘱託雇用により、事務局経費の削減を図る。

V. 平成27年度収支予算

収支予算書

平成27年1月1日から平成27年12月31日まで

(単位:円)

	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
I. 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
① 特定資産運用益	(110,000)	(230,000)	(△ 120,000)	
基金運用益	110,000	230,000	△ 120,000	
② 受取会費	(53,300,000)	(55,610,000)	(△ 2,310,000)	
1 一般会員会費	21,520,000	21,300,000	220,000	
2 学術評議員会費	20,200,000	22,400,000	△ 2,200,000	
3 賛助会員会費	11,580,000	11,910,000	△ 330,000	
③ 事業収益	(86,177,400)	(96,744,500)	(△ 10,567,100)	
1 学術集会費収益	(58,442,400)	(63,895,500)	(△ 5,453,100)	
参加登録費	20,280,000	23,310,000	△ 3,030,000	
機器展示料・広告料	18,550,400	20,690,000	△ 2,139,600	
懇親会費	6,200,000	5,970,000	230,000	
ランチョンセミナー	13,412,000	13,925,500	△ 513,500	
2 購読料 ※1	(415,000)	(2,740,000)	(△ 2,325,000)	
3 論文掲載料	(16,320,000)	(14,544,000)	(1,776,000)	
4 論文別刷料 ※2	(1,000,000)	(4,300,000)	(△ 3,300,000)	
5 広告掲載料	(10,000,000)	(10,865,000)	(△ 865,000)	
6 雑 収 入	(0)	(400,000)	(△ 400,000)	
④ 受取補助金等	(11,650,000)	(9,933,000)	(1,717,000)	
1 指定正味財産からの振替額	8,900,000	9,518,000	△ 618,000	
2 学術集会補助金	2,750,000	415,000	2,335,000	
⑤ 受取寄付金	(15,900,000)	(20,564,500)	(△ 4,664,500)	
1 指定正味財産からの振替額	0	2,140,000	△ 2,140,000	
2 学術集会賛助金	15,900,000	18,424,500	△ 2,524,500	
⑥ 雑 収 益	(580,000)	(180,000)	(400,000)	
受取利息等	580,000	180,000	400,000	
経常収益計	167,717,400	183,262,000	△ 15,544,600	
(2) 経常費用				
① 事業費	(137,663,725)	(168,396,850)	(△ 30,733,125)	
事務所借料	446,400	446,400	0	
給料手当	2,482,000	2,482,000	0	
法定福利費	380,250	380,250	0	
退職給付費用	91,800	91,800	0	
会 場 費	35,766,400	38,088,800	△ 2,322,400	
旅費・通信交通費	6,165,000	10,715,000	△ 4,550,000	
印 刷 費	12,160,000	12,660,000	△ 500,000	
会 議 費	2,360,000	1,980,000	380,000	
謝金・その他	12,860,000	10,160,000	2,700,000	
懇親会費	6,700,000	6,370,000	330,000	
編集刊行費	32,100,000	54,019,400	△ 21,919,400	
国際情報発信強化費	7,500,000	5,600,000	1,900,000	
学術事業協力費	400,000	100,000	300,000	
副 賞	1,200,000	1,200,000	0	
業務委託費	16,281,000	22,256,200	△ 5,975,200	
租税公課	700,000	1,700,000	△ 1,000,000	
減価償却費	70,875	147,000	△ 76,125	

	予算額	前年度予算額	増減	備考
② 管理費	(29,386,094)	(27,085,250)	(2,300,844)	
事務所借料	1,554,624	1,541,600	13,024	
給料手当	8,618,000	8,618,000	0	
法定福利費	1,309,750	1,309,750	0	
退職給付費用	3,252,200	316,200	2,936,000	
旅費・通信交通費	3,400,000	3,800,000	△ 400,000	
印刷費	700,000	667,500	32,500	
会議費	500,000	800,000	△ 300,000	
リース料	34,000	34,000	0	
消耗品費	1,000,000	1,000,000	0	
支払手数料	950,000	750,000	200,000	
臨時雇賃金	1,000,000	400,000	600,000	
慶弔費	500,000	350,000	150,000	
業務委託費	4,850,000	6,236,100	△ 1,386,100	
租税公課	100,000	0	100,000	
減価償却費	317,520	212,100	105,420	
選挙費	1,100,000	300,000	800,000	
雑費	200,000	750,000	△ 550,000	
経常費用計	167,049,819	195,482,100	△ 28,432,281	
評価損益等調整前当期経常増減額	667,581	△ 12,220,100	12,887,681	
特定資産評価損益等				
投資有価証券評価損益等				
評価損益等計				
当期経常増減額	667,581	△ 12,220,100	12,887,681	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	667,581	△ 12,220,100	12,887,681	
一般正味財産期首残高	152,650,794	164,870,894	△ 12,220,100	
一般正味財産期末残高	153,318,375	152,650,794	667,581	
II 指定正味財産増減の部			0	
① 受取補助金等				
受取補助金等	8,700,000	1,500,000	7,200,000	
② 一般正味財産への振替額				
一般正味財産への振替額	△ 8,900,000	△ 6,058,000	△ 2,842,000	
当期指定正味財産増減額	△ 200,000	△ 4,558,000	4,358,000	
指定正味財産期首残高	3,900,000	6,058,000	△ 2,158,000	
指定正味財産期末残高	3,700,000	1,500,000	2,200,000	
III 正味財産期末残高	157,018,375	154,150,794	2,867,581	

※1, ※2) 平成27年より, 事業収益の購読料及び論文別刷料は, 代理店が手数料控除後に学会に納入する金額

収支予算書

平成27年1月1日から平成27年12月31日まで

(単位:円)

	公益目的事業会計(内訳表)						法人会計	内部取引消去	合計
	公1 <small>学術集会等開催</small>	公2 刊行	公3 褒賞	公4 連携	共通	小計			
I 一般正味財産増減の部									
1. 経常増減の部									
(1)経常収益									
① 特定資産運用益	0	0	0	0	90,000	90,000	20,000		110,000
基金受取利息					90,000	90,000	20,000		110,000
② 受取会費	0	0	0	0	26,650,000	26,650,000	26,650,000		53,300,000
1 一般会員会費					10,760,000	10,760,000	10,760,000		21,520,000
2 学術評議員会費					10,100,000	10,100,000	10,100,000		20,200,000
3 賛助会員会費					5,790,000	5,790,000	5,790,000		11,580,000
③ 事業収益	60,692,400	25,485,000	0	0	0	86,177,400	0		86,177,400
1 学術集会費収益	58,442,400	0	0	0	0	58,442,400	0		58,442,400
参加登録費	20,280,000					20,280,000	0		20,280,000
器械展示料	18,550,400					18,550,400	0		18,550,400
予稿集広告料									
懇親会費	6,200,000					6,200,000	0		6,200,000
ランチョンセミナー	13,412,000					13,412,000	0		13,412,000
2 購読料	0	415,000	0	0	0	415,000	0		415,000
※購読料		400,000				400,000	0		400,000
※バックナンバー売上金		15,000				15,000	0		15,000
3 論文掲載料	2,250,000	14,070,000	0	0	0	16,320,000	0		16,320,000
和文誌掲載料		3,000,000				3,000,000	0		3,000,000
英文誌掲載料		10,170,000				10,170,000	0		10,170,000
抄録掲載料	2,250,000	900,000				3,150,000	0		3,150,000
4 論文別刷料	0	1,000,000	0	0	0	1,000,000	0		1,000,000
別刷料		500,000				500,000	0		500,000
著作権等使用料		500,000				500,000	0		500,000
5 広告掲載料	0	10,000,000	0	0	0	10,000,000	0		10,000,000
広告掲載料		10,000,000				10,000,000	0		10,000,000
④ 受取補助金等	4,150,000	7,500,000	0	0	0	11,650,000	0		11,650,000
1 指定正味財産からの振替額	1,400,000	7,500,000				8,900,000	0		8,900,000
2 学術集会補助金	2,750,000					2,750,000	0		2,750,000
⑤ 受取寄付金	15,900,000					15,900,000	0		15,900,000
学術集会賛助金	15,900,000					15,900,000	0		15,900,000
⑥ 雑収益	0	0	0	0	35,000	35,000	545,000		580,000
受取利息等					35,000	35,000	35,000		70,000
雑収益							510,000		510,000
経常収益計	80,742,400	32,985,000	0	0	26,775,000	140,502,400	27,215,000		167,717,400
(2)経常費用						0			
① 事業費	89,159,975	41,994,450	3,109,300	1,400,000	2,000,000	137,663,725			137,663,725
1 事務所借料	298,000	49,000	99,400			446,400			446,400
2 給料手当	1,634,000	293,000	555,000			2,482,000			2,482,000
3 法定福利費	253,500	42,250	84,500			380,250			380,250
4 退職給付費用	61,200	10,200	20,400			91,800			91,800
5 会場費	35,766,400					35,766,400			35,766,400
6 旅費・通信交通費	3,165,000		500,000	1,000,000	1,500,000	6,165,000			6,165,000
7 印刷費	12,160,000					12,160,000			12,160,000
8 会議費	2,210,000		150,000			2,360,000			2,360,000
9 謝金・その他	12,360,000		500,000			12,860,000			12,860,000
10 懇親会費	6,700,000					6,700,000			6,700,000
11 編集・刊行費		32,100,000				32,100,000			32,100,000
12 国際情報発信強化費		7,500,000				7,500,000			7,500,000
13 学術事業協力費				400,000		400,000			400,000

	公益目的事業会計(内訳表)						法人会計	内部取引消去	合計
	公1 学術集会等開催	公2 刊行	公3 褒賞	公4 連携	共通	小計			
14 副賞			1,200,000			1,200,000			1,200,000
15 業務委託費	14,281,000	2,000,000				16,281,000			16,281,000
16 租税公課	200,000				500,000	700,000			700,000
17 減価償却費	70,875					70,875			70,875
② 管理費							29,386,094		29,386,094
1 事務所借料							1,554,624		1,554,624
2 給料手当							8,618,000		8,618,000
3 法定福利費							1,309,750		1,309,750
4 退職給付費用							3,252,200		3,252,200
5 旅費・通信交通費							3,400,000		3,400,000
6 印刷費							700,000		700,000
7 会議費							500,000		500,000
8 リース料							34,000		34,000
9 消耗品費							1,000,000		1,000,000
10 支払手数料							950,000		950,000
11 臨時雇賃金							1,000,000		1,000,000
12 慶弔費							500,000		500,000
13 業務委託費							4,850,000		4,850,000
14 租税公課							100,000		100,000
15 減価償却費							317,520		317,520
16 選挙費							1,100,000		1,100,000
17 雑費							200,000		200,000
経常費用計	89,159,975	41,994,450	3,109,300	1,400,000	2,000,000	137,663,725	29,386,094		167,049,819
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 8,417,575	△ 9,009,450	△ 3,109,300	△ 1,400,000	24,775,000	2,838,675	△ 2,171,094		667,581
基本財産評価損益等	0	0	0	0	0	0	0		
特定資産評価損益等	0	0	0	0	0	0	0		
投資有価証券評価損益等	0	0	0	0	0	0	0		
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0		
当期経常増減額	△ 8,417,575	△ 9,009,450	△ 3,109,300	△ 1,400,000	24,775,000	2,838,675	△ 2,171,094		667,581
2. 経常外増減の部									
(1)経常外収益									
中科目別記載									
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0		0
(2)経常外費用									
中科目別記載									
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0		0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0		0
他会計振替額					△ 2,838,675	△ 2,838,675	2,838,675		0
当期一般正味財産増減額	△ 8,417,575	△ 9,009,450	△ 3,109,300	△ 1,400,000	21,936,325	0	667,581		667,581
一般正味財産期首残高					114,097,173	114,097,173	38,553,621		152,650,794
一般正味財産期末残高	△ 8,417,575	△ 9,009,450	△ 3,109,300	△ 1,400,000	136,033,498	114,097,173	39,221,202		153,318,375
II 指定正味財産増減の部									
受取補助金	1,200,000	7,500,000				8,700,000	0		8,700,000
一般正味財産への振替額	△ 1,400,000	△ 7,500,000				△ 8,900,000	0		△ 8,900,000
当期指定正味財産増減額	△ 200,000	0				△ 200,000	0		△ 200,000
指定正味財産期首残高	1,400,000	2,500,000				3,900,000	0		3,900,000
指定正味財産期末残高	1,200,000	2,500,000				3,700,000	0		3,700,000
III 正味財産期末残高	△ 7,217,575	△ 6,509,450	△ 3,109,300	△ 1,400,000	136,033,498	117,797,173	39,221,202		157,018,375

VI. 規則の変更・制定

【変更】

定款施行細則

(第 18 条挿入)

第 18 条 本会に、理事長のほかに次期理事長候補者として副理事長 1 名を置く。

- 2 副理事長は理事会において任期 1 期目の理事中より選出する。副理事長は就任 2 期目となる初年度の 4 月 1 日において年齢満 65 才未満でなければならない。
- 3 副理事長が任期中に事故あるとき、又は副理事長が欠けたときは、理事会は別の者を副理事長に選任することができる。
- 4 副理事長が常務理事でない場合は、常務理事会にオブザーバーとして出席する。

(以下、条数繰り下げ)

会費規定

(附則を追記)

- 附 則 1 本規定第 2 条にかかわらず、外国国籍を有し、海外に在住する会員の会費年額は 6,000 円とする。ただし、学生の証明を提出するものの会費年額は 3,000 円とする。
- 2 本規定は平成 26 年 12 月 13 日から施行し、平成 27 年度会費から適用する。

名誉会員推薦規定運用基準 (第 2 項第 2 号)

旧	新
(2) 常置委員会及び特別委員会の委員を通算 10 年以上経験した者 <u>ただし、委員歴の算定に当たっては、部会長経験者及び 64 才で就任し任期 1 年で退任した選挙選出常置委員は、いずれも委員歴 2 年と数える。</u>	(2) 常置委員会及び特別委員会の委員等を通算 10 年以上経験した者 <u>委員歴の算定に当たり、次の事項はいずれも委員歴 2 年と数える。</u> a) <u>部会長経験者</u> b) <u>常置委員以外の Journal of Pharmacological Sciences の Editor 経験者</u> c) <u>常置委員以外の日薬理誌の編集委員経験者</u> d) <u>64 才で就任し任期 1 年で退任した選挙選出常置委員</u> 附則 <u>本基準は平成 26 年 12 月 13 日より施行する。ただし、改正第 2 項第 2 号の b) 及び c) は平成 26 年度の担当から適用する。</u>

永年会員推薦規定運用基準 (第 1 項第 1 号)

旧	新
(1) 本会の学術評議員としての経歴が 30 年以上あり、かつ、部会長、常置委員会委員又は特別委員会委員として本会の発展に貢献した者	(1) 本会の学術評議員としての経歴が 30 年以上あり、かつ、部会長、常置委員会委員、 <u>特別委員会委員、Journal of Pharmacological Sciences の Editor 又は日薬理誌の編集委員</u> として本会の発展に貢献した者 附則 <u>本基準は平成 26 年 12 月 13 日より施行する。ただし、改正第 1 項第 1 号は平成 26 年度の担当から適用する。</u>

Journal of Pharmacological Sciences 優秀論文賞規定

旧	新
(選考対象) 第 4 条 本賞は、 <u>前年中に掲載された論文を対象とし、選考を行う。</u>	第 4 条 本賞は、 <u>過去 3 年間に掲載された原著論文の中で引用回数が多い順に約 10 編を選び、その中から選考する。</u> 附則 <u>本規定は平成 26 年 4 月 26 日より施行する。平成 27 年度における授賞選考対象論文は、Journal of Pharmacological Sciences 平成 24 年度から平成 26 年度掲載分とする。ただし、JPS 優秀論文賞を受賞している論文は選考対象に含めない。以後も既に JPS 優秀論文賞を受賞した論文は選考の対象から除外する。</u>

【制定】

倫理委員会規定

平成 26 年 12 月 13 日制定

(趣 旨)

第 1 条 公益社団法人日本薬理学会（以下「本会」という）の会員は、科学者の行動規範を遵守しなければならない。本会は学会活動の公正性及び信頼性の確保のために、必要に応じて倫理委員会（以下「委員会」という）を設置する。

(理事長の責務)

第 2 条 理事長は、会員が行う研究等で不正行為が認められたときは、速やかに適切な対応策を講じなければならない。

(審 査)

第 3 条 理事長は、不正行為が疑われるとき及び不正行為の通報を受けたときは、直ちに常務理事会に報告し、常務理事とともに事実関係の調査の必要性を検討したうえで、委員会開催の要否を決定する。

2 理事長は、委員会開催の必要を認めるときは、当該決定から 2 週間以内に委員会を招集しなければならない。

3 委員会は、理事会の諮問機関として、当該疑義の事実関係を可能な範囲で調査し、講じるべき措置の案を理事長に答申する。

4 理事長は、理事会の承認を得て、不正行為の是正を命じ、また不正を行った者について処分を科することができる。

(不服申し立て)

第 4 条 第 3 条第 4 項の処分を受けた者は、その決定を知った日から 2 週間以内に文書により理事長に不服申し立てを行うことができる。

2 前項の不服申し立ての受理、却下、棄却については常務理事会で判定する。

(委員会の構成・任期)

第 5 条 委員会は、常務理事 3 名、外部委員 1 名以上及び必要に応じて追加される委員の 7 名以内で構成する。

2 委員会は男女両性により構成されなければならない。

3 委員長は、事案ごとに理事長が指名し、議長となる。

4 委員の任期は事案の結論が得られるまでとする。

(定足数)

第 6 条 委員会は事案ごとに招集される委員の過半数の出席がなければ議事を開き議決することができない。

(当事者の扱い)

第 7 条 委員は、自らが審査の対象となる場合、委員を辞任しなければならない。

(意見の聴取)

第 8 条 審査対象の当事者は、委員会の求めに応じて出席し、当該疑義について意見を述べるることができる。

(委員会の議決)

第 9 条 委員会の議決は、出席委員全員の合意を原則とする。全員の合意が得られないときは過半数をもって決する。

(委員以外の出席)

第 10 条 委員会は、必要に応じて委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(議事録及び審査記録)

第 11 条 委員長は、議事録及び審査記録を作成し、委員長及び委員長の指名した出席委員の代表 2 名が署名・押印する。

2 議事録及び審査記録は、法令に基づき保存する。

(守秘義務)

第 12 条 委員は、その任期中及び任期満了後も、職務上知り得た情報を他に漏えいしてはならない。第 8 条の関係者、第 10 条及び委員会の庶務にあたる者も同様とする。

附 則 本規定は平成 26 年 12 月 13 日より施行する。本規定の制定をもって倫理委員会規則を廃止する。

VII. 理事会報告

- (理事長) 飯野 正光 以上 1名
(理事) 赤池 昭紀, 伊藤 芳久, 今泉 祐治, 今井由美子, 大熊誠太郎, 岡 淳一郎, 岡村 富夫, 金子 周司,
川西 徹, 武田 弘志, 中谷 晴昭, 福永 浩司, 宮田 篤郎, (森 豊樹), 谷内 一彦, 柳原 延章,
米田 幸雄 以上 17名
(監事) 植田 弘師, 木村 純子 以上 2名
(アドバイザー) 石井 邦雄, 岩尾 洋 以上 2名

1. 理事会構成について

平成 26 年度は、飯野 正光理事長、赤池 昭紀財務委員長、中谷 晴昭総務委員長、福永 浩司編集委員長の各常務理事、企業所属理事 1 名、公的研究機関所属理事 1 名、女性理事 1 名を含む 18 名と監事 2 名で理事会が運営された。第 89 回日本薬理学会年会長の石井 邦雄教授と前理事長の岩尾 洋教授がオブザーバーとして参加した。森 豊樹理事が任期半ばで逝去された。

2. 学会の運営について

今期理事会は、財政建て直しを確実に達成したうえで、本来の事業活動に注力し、特に 4 年後に控えた第 18 回国際薬理学・臨床薬理学会議 (WCP2018) の京都開催を本会の活性化や国際化にとってのドライビングフォースとして位置づけ、1) 会員数及び年会参加者数の確保と年会の国際化により薬理学会の更なる活性化を目指すこと、2) WCP2018 組織委員会との連携で WCP2018 成功に向けての準備及び国際化対応を進めること、また、3) 前期から申し送られた事務局業務の運営に関する方針を決定すること、4) 編集出版業務の委託先変更に伴う引き継ぎを完了させること、の 4 項目を目標に掲げ理事会運営を行った。

- 1) 学会を活性化し、新たな会員を獲得するために、年会を最も重要なものと位置づけ、理事会主導で年会のテーマを設定し、年会長と年会学術企画委員会が緊密に連絡をとり、年会のテーマに基づいた企画シンポジウムの編成に取り組むことを決定した。年会の国際化への取り組みとして第 88 回年会 (今泉年会長) の公募シンポジウムは原則英語、年会優秀発表賞候補者は英語での発表、発表スライドやポスターは英語の標記とする。
- 2) 日本学術会議 IUPHAR 分科会と WCP2018 組織委員会の合同会議を平成 26 年 8 月 14 日に開催した。WCP2014 (南アフリカ共和国ケープタウン市開催) 会期中の IUPHAR 総会および閉会式で、成宮 周教授 (WCP2018 会長) と飯野 正光教授 (WCP2018 事務総長) が WCP2018 の説明を行い、展示会場では WCP2018 特設ブースを設置して宣伝活動を行った。ASPET (米国薬理学会) との相互交流事業を平成 28 年度の年会から行うことを決定した。
- 3) 前期から申し送られた事務局業務の運営に関する方針については、WCP2018 開催後の 2019 年 (平成 31 年) まで現行の事務局を存続させることを決定した。
- 4) Journal of Pharmacological Sciences (JPS) の編集出版業務は株式会社金芳堂から Elsevier に委託先が変更となった。平成 26 年 8 月から Elsevier で新規投稿の受付を開始し、平成 27 年 1 月には JPS 編集出版業務の全てが Elsevier に移行した。

日本薬理学雑誌 (日薬理誌) の編集出版業務は株式会社金芳堂から中西印刷株式会社に委託先が変更となった。

3. 学会の在り方と薬理学の展開について

- ・学術研究等における不正行為の防止とその対応を目的とする倫理委員会規定を制定した。文部科学省の研究不正ガイドラインに沿って倫理委員会と倫理委員会規定の運用を行う。
 - ・前期からの申し送りを受けて第 88 回年会で利益相反・研究者倫理についてのランチョンセミナーを開催し、会員への COI 開示の周知に努める。
 - ・海外からの入会を促進すること、及び JPS の全面電子ジャーナル化を受けて会費規定の変更を行った。また、定年を機に学会を退会する会員への対応としてシニア割引制度を導入したことで、平成 26 年度に 28 名からシニア割引の申請がなされた。JPS 全面電子ジャーナル化に伴う会員種別毎の会費年額の一本化、海外在住の外国籍会員の会費年額を 6,000 円とし、学生は大学院生、学部生に係わらず 3,000 円とする海外会費及びシニア会費はいずれも平成 27 年度から適用となった。
- 1) 学術集会、講演会等の開催事業について
 - ・第 87 回年会 (谷内 一彦年会長) は、「復興と創造 (Resilience, Ingenuity and Rebirth)」をテーマに平成 26 年 3 月 19 日から 21 日まで仙台市の仙台国際センター、東北大学川内萩ホールで開催された。日本薬理学会が取り組むべき重

要なテーマのもとに多彩な企画の他に、高校生が大学の研究室で行った研究の発表を行った。科研費補助事業の市民公開講座は「震災によるこころの病の克服を目指して」をテーマに平成 26 年 3 月 19 日に東北大学川内萩ホールで開催された。

・地方部会は、地域の特性を生かした企画で 6 回開催された。

・新薬理学セミナー 2 回、市民公開講座 2 回は薬理学振興助成事業として地方部会に合わせて開催された。

2) 学会誌等刊行物の刊行事業について

・日薬理誌ブルページの情報のうち、ホームページに移行可能なものは平成 25 年度より順次ホームページに移行してきたが、会員専用ホームページに掲載される「追悼」と「教授紹介」は日薬理誌掲載に戻すことを決定した。

・JPS は平成 27 年度より全面電子ジャーナル化し、Elsevier で編集出版業務を行う。Aims & Scope に臨床薬理の分野を加え、臨床薬理に関連する論文を積極的に受け入れている。Accept した論文は 2 週間以内に投稿された形態のまま掲載することで、早期公開に取り組んでいる。引用数の多いレビューの執筆を海外の著名な科学者に依頼するなど、国際情報発信力強化を加速した。

3) 研究の奨励及び研究業績の表彰事業について

・江橋節郎賞選考委員会の答申に基づき貝淵 弘三教授（名古屋大学大学院医学系研究科）を第 8 回江橋節郎賞受賞者に決定した。

・第 30 回学術奨励賞受賞者 3 名及び JPS 優秀論文賞受賞論文（2013 年掲載論文）3 編を決定した。

・平成 26 年度（第 87 回年会）の年会優秀発表賞は、20 名に贈呈された。

4) 内外の関連学術団体との連携及び協力事業

・WorldPharma2014 で井上 和秀教授、貝淵 弘三教授、金井 好克教授の 3 名がプレナリーレクチャーを、次世代の会他がシンポジウムで講演を行った、

・NC-IUPHAR は貝淵 弘三教授（キナーゼ）、金井 好克教授（トランスポーター）が 2012 年（平成 24 年）からヨーロッパでの会議に参加しているが、免疫薬理学部門新設に伴い、当該専門分野の委員に石井 優教授（大阪大学）を推薦し、承認された。

Guide to Pharmacology データベース講習会を第 88 回年会でランチョンセミナーとして開催する。

・日本臨床薬理学会との共催シンポジウム、日本毒性学会との合同シンポジウムは協定書に則り、開催している。

4. 代議員選挙の実施

平成 26 年 9 月に就任する代議員 140 名を Web 投票により選出した。

5. 第 90 回（平成 29 年）年会長候補者の決定

第 90 回年会長候補者として長崎大学大学院医歯薬学研究所の植田 弘師教授を選定した。学術評議員会の議を経て総会において決定される。

6. 名誉会員の推薦

総務委員会による資格充足の確認を経て本会の名誉会員候補者として、岩尾 洋、鈴木 勉、本田 一男、松田 敏夫、宮本 政臣の 5 氏を学術評議員会及び総会に推薦することを決定した。

7. 永年会員の推薦

総務委員会による資格充足の確認を経て本会の永年会員候補者として、伊藤 勝昭、木村 郁子、塩見 浩人、中村 秀雄、松井 竹史の 5 氏を学術評議員会及び総会に推薦することを決定した。

8. 平成 27 年度薬理学振興助成事業決定の件

1) 新薬理学セミナー開催、2) 市民公開講座開催、3) ダイバーシティ推進ランチョンセミナー開催、4) Guide to Pharmacology 講習会及び動画配信、の各助成事業並びに助成額を決定した。

9. 決算および予算案

平成 26 年度の決算を承認し、学術評議員会及び総会に付議する。平成 27 年度予算は平成 26 年 12 月 13 日開催の理事会の承認、決定を経て内閣府に提出した。

10. 平成 25 年 11 月から平成 26 年 11 月までの新規入会者 503 名を承認した。

VIII. 委員会等報告

(各委員会委員名は五十音順、敬称略)

総務委員会報告

委員長：中谷 晴昭

委員：伊藤 芳久，大熊誠太郎，片岡 泰文，鈴木 勉，玉置 俊晃，服部 裕一

本年度は委員会を2回開催した。

1. 会費について

・シニア割引制度について

平成27年度会費から、1) 会費納入年の3月31日に年齢満65歳以上の者、2) 申請書提出時に常勤職に就いていないか、適用初年度の3月31日までに全ての常勤職を退職する見込みの者、3) 申請書提出年までの会費を完納している者、の三要件を全て充足する会員には、申請によりシニア割引が適用される。平成26年秋の申請に備え、申請書様式を決定し、日本薬理学雑誌9月号と10月号に掲載して会員への周知に努めた。

平成26年度は28名の申請があり、全員にシニア割引を適用できることを確認し、理事会の承認を得た。

・海外会員の会費について

平成27年よりJournal of Pharmacological Sciences (JPS) が全面電子化となることを考慮し、海外在住の外国籍会員には6,000円の会費年額を、学生の証明を提出する者には大学院生、学部生にかかわらず会費年額3,000円を適用することを決定し、会費規定の附則に追記した。

2. 諸規則について

・定款施行細則変更について

理事会の継続性担保の方策として副理事長制導入のための検討を行い、定款施行細則の変更を理事会に提案した。新たに第18条として副理事長に関わる条項を設け、副理事長候補者は、1) 任期1期目の理事中より選出すること、2) 就任2期目の初年度の4月1日において年齢満65才未満であること、また、副理事長は理事の互選により選出することを明文化した。

・名誉会員推薦規定運用基準及び永年会員推薦規定運用基準の変更について

常置委員でない日本薬理学雑誌の編集委員及びJPSの編集委員を名誉会員、永年会員推薦の際の功績に組み入れることを検討し、平成26年度の該当者から1期2年のみ功績に算入することとする両変更案を理事会に提案し、承認された。

・倫理委員会規定の制定について

学術研究等における不正行為の防止とその対応を目的とする倫理委員会を設置し、COIに関わる事項も本委員会で審査することとする倫理委員会規定制定案を2回の審議を経て決定し、理事会に提案、承認された。

3. 代議員選挙の件

平成26年秋に就任する代議員の選出をWeb投票で行い、140名を決定した。

4. 学会ホームページについて

海外会員受け入れ体制の整備の一環で英文ホームページを充実させ、入会手続きの利便性を図ることが決定している。英文ホームページからの入会申請、会費のカード決済機能を盛り込んだ英文ホームページの構築を決定した。

財務委員会報告

委員長：赤池 昭紀

委員：石井 邦雄，井上 和秀，今泉 祐治，岡 淳一郎，小口 勝司，藤尾 慈，柳原 延章，吉岡 充弘

委員の交替があり、藤尾委員が新たに委員会に加わった。

委員会は平成26年度の決算処理を行い、平成27年度の予算案を編成した。また、財務の観点から学会活性化の方策を検討し、理事会に提案を行った。

1. 平成26年度決算について

平成26年度は一般正味財産が約185万円のマイナス、指定正味財産が約220万円のマイナスとなり、正味財産全体では、前年度より405万6,692円の減少で決算した。経常収入は前年度に比較すると約145万円増加の1億7,549万7,922円、経常費用は約234万円増加の1億7,735万1,014円である。平成27年度より、和文誌編集出版業務、英文誌編集出版業務及び会員管理業務の委託先変更があるため、移行過渡期の平成26年度中に移行元と移行先で重複する費用が発生している。移行を終えた平成27年度決算より、前期理事会から対応してきた経費削減への取り組みの効果が実感できる見込みである。

2. 平成 27 年度予算について

平成 27 年度予算編成方針 1)～5)に基づく平成 27 年度の経常収入は 1 億 6,771 万 7,400 円、経常費用は 1 億 6,704 万 9,819 円で、収支差額 66 万 7,581 円の黒字予算を編成した。予算編成後に事務局体制が確定したことで、予算額より人件費等管理費の削減がさらに見込まれる。

予算編成方針

- 1) JPS 全面電子体により、会員種別ごとの会費金額が一本化されるため、変更後の会費金額と平成 25 年度の会員数に基づいた会費収入とした。
- 2) 平成 27 年度の春部会から学術評議員集会を学術評議員会に戻す方針で、春部会への交付金をそれぞれ 10 万円増額した。
- 3) 出版関連収入のうち、和文誌の購読料及び論文別刷料は、中西印刷が代理店として顧客から徴収を行う額から、送料、印刷費など実費控除後の金額の 50%～60%をそれぞれの収入とした。英文誌は、投稿者の掲載料を収入に、Elsevier への支払額を委託費支出とした。
- 4) 人件費については、平成 26 年度と同額とした。
- 5) 会員管理業務の委託先変更のため、管理費の外部委託費を 100 万円増額した。

3. 学会活性化の方策について

薬理学会財務シミュレーション、会費収入の推移、貸借対照表などの資料をもとに、学会財政の改善に向けた方策について検討を行い、理事会に以下を提案した。

会員増の方策として薬理学会の活動を広報し、入会のきっかけを提供する場として年会を最も重要なものと位置づけ、年会の充実を目的に年会で取り扱うテーマの裾野を広げ、多様な研究者、医療関係者を引きつけていくための年会のあり方、そのための学会からの財政支援を検討した。

・企画シンポジウムの拡充と財務上の支援

- 1) 積極的に取り扱うことが望まれる新規テーマに、オープンイノベーション、トランスレーショナルリサーチ、個別化医療などが挙げられる。
- 2) 企画シンポジウムで招聘シンポジストの増加が予想されるため、200 万円程度を限度額として学会から財政支援を行う。
- 3) 早い時期に企画シンポジウムの概要を決定し、その後に公募シンポジウムの募集を行う手順とし、企画シンポジウムを増やす。
- 4) 年会長・年会組織委員会と年会学術企画委員会との連携を強化する。

・日本臨床薬理学会との連携の推進

- 1) 臨床薬理学会とのコラボレーションを進めることで、より多くの臨床系研究者の薬理学会への参画を促す。
- 2) 臨床のテーマ、ガン、感染症、再生医療などのテーマを積極的に取り上げ、臨床薬理学会と連携してシンポジウムを企画する。
- 3) 日本専門医機構の発足は臨床医を薬理学会に取り込む良い機会であり、臨床医が参加するインセンティブが増すような企画を考える。

・企業、学生の参加の推進

- 1) 薬理学領域の研究者のシーズを企業に紹介し、マッチングをはかる場を提供することにより、企業関係者の年会への参加を促進する。
- 2) 前文を目的としたワークショップ、展示ブース等を企画する。
- 3) 薬学の学生を主たる対象とし、企業紹介、面談の場を提供する。

4. その他

本会のロゴマーク「JPS」は商標登録により「学術集会・セミナーの企画・運営又は開催」で公然使用が認められることとなった。しかし、電子出版物の提供、書籍の制作では公益財団法人日本郵趣協会が登録済みの「JPS」の類似商標と見なされることから、本会のロゴマーク「JPS」を使用しても商標侵害で訴えられることの無いよう「差し止め請求権の不行使」を同財団宛に申し入れた。

編集委員会報告

委員長 (JPS Editor-in-Chief) : 福永 浩司

委員 (JPS Associate Editors) : 安西 尚彦, 稲垣 直樹, 上園 保仁, 岡村 富夫, 甲斐 広文 (Press Editor),

笹栗 俊之, 筒井 正人, 松田 敏夫, 松本 欣三, 若森 実, 渡邊 裕司

(下線は協力委員)

任期途中で委員 1 名が辞任した。筒井 正人氏に協力委員を委嘱した。

I. JPS 投稿・審査状況 (投稿数, 採択率, Impact Factor)

1. 受付論文数 (2014 年 1 月 1 日～12 月 31 日受付。Review を含む。)

1) 分野別：() 内は海外からの内数

1 生理活性物質	11 (9)
2 受容体・チャネル・輸送系	33 (19)
3 細胞内情報伝達	27 (22)
4 生化学薬理	35 (30)
5 末梢神経薬理	5 (1)
6 心血管薬理・血液	47 (30)
7 中枢神経薬理	53 (18)
8 呼吸器薬理	7 (6)
9 腎薬理	8 (5)
10 消化器薬理	15 (6)
11 平滑筋薬理	3 (1)

12 骨・歯科薬理	10 (5)
13 内分泌薬理	7 (5)
14 臨床薬理	13 (9)
15 免疫薬理・炎症	20 (16)
16 化学療法	15 (7)
17 毒科学	6 (4)
18 Natural medicine materials	25 (20)
19 幹細胞薬理	2 (2)
20 疼痛薬理	5 (1)
21 生物製剤薬理	1 (1)
合計 348(217)	

2) 国別

China 147, Japan 131, Korea 23, USA 7, India 6, Brazil 5, Iran 5, Serbia 4, Egypt 3, Germany 2, Taiwan 2, Thailand 2, Turkey 2, Chile 1, Croatia 1, Czech 1, Lithuania 1, Mexico 1, Poland 1, Portugal 1, Singapore 1, Sweden 1

2. 採択率（投稿年別）

2009年 47%, 2010年 49%, 2011年 50%, 2012年 50%, 2013年 48%, 2014年 38% (国内論文 64%, 海外論文 23%)

*注：2014年12月31日現在、審査中 55 件。

3. Impact Factor (Journal Citation Report JCR® 発表)

2008年：2.599, 2009年：2.176, 2010年：2.260, 2011年：2.082, 2012年：2.150,

2013：2.114 (国内発行の自然科学系 236 誌中 35 位)

II. JPS 刊行状況：本資料の「事業報告」の項に記載

III. JPS 審議・決定、報告事項

1. Elsevier による編集業務の移行手続きについて

現行の投稿査読システム(Editorial Manager)を継続利用し、7月31日までの受付論文は金芳堂にて、8月1日以降の新規受付論文はエルゼビアにて扱い、受付番号により管理する。

2. 編集体制について

現行は国内 12 名、海外 6 名の編集体制であるが Dr. Curtis Okamoto(Southern California University)が Associate Editor として8月より加わる。学会理事、常置委員から編集委員が選任されているが、現在 Editorial Board 制を検討中である。また、Associate Editor を2年間務めた編集委員は1期2年分を名誉会員の資格要件に加える。

3. JPS 優秀論文賞規定の変更について

第4条の変更が承認され、過去3年間に掲載された原著論文の中で引用回数の多い順に約10編を選び、編集委員会の審査により優秀論文賞を決定する。

4. COI の規定について

JPS が採用している COI の運用方針を確認し、各 Editor においては審査時に COI の項目が論文に記載されているかのチェックを徹底する。

5. IF の向上について

2013年7月の編集委員会にて新設したEditorial 欄にできるだけ執筆する。「特集」などで海外からの原稿の掲載を増やすこと、また年会で招待講演を行った研究者にできるだけ総説を執筆してもらうよう努力する。

6. 査読期間短縮への取組みについて

受理論文は2週間程度で出版前論文として公開できるようにする。

7. 国際情報発信強化の取組みについて

国際発信に向けた取組みに関して、委員会で協議して科研費「国際情報発信強化」を申請し、採択された。さらに第88回日本薬理学会年会(名古屋)において、JPS 後援の JPS サテライトシンポジウム1, 2を企画することにした。

2014-2015 年度 Editor および Advisor の担当分野

分野		Editor	Advisor
01	生理活性物質	安西, 稲垣, 上園, 岡村, 笹栗, 福永, 松田, 松本, Govitrapong, Lawrence, Wong	石橋 仁, 上野 晋, 香月博志, 葛巻直子, 小山 豊, 近藤一直, 田中宏幸, 田中芳夫, 西堀正洋, 西山 成, 柳田俊彦, Han, Kim
02	受容体・チャネル・輸送系	安西, 稲垣, 上園, 松田, 松本, 若森, Govitrapong, Lawrence, Okamoto, Wong, Popoli	磯濱洋一郎, 石橋 仁, 上野 晋, 内田信也, 香月博志, 葛巻直子, 小山 豊, 酒井規雄, 田熊一敏, 武田泰生, 田中芳夫, 西堀正洋, 西山 成, 平野勝也, 柳田俊彦, Bathgate, Mallei, Musazzi, Satayavivad
03	細胞内情報伝達	上園, 笹栗, 福永, 松田, Govitrapong, Okamoto, Popoli	石橋 仁, 香月博志, 木澤靖夫, 小山 豊, 酒井規雄, 武田泰生, 西堀正洋, 平野勝也, 柳田俊彦, Bathgate, Bhuiyan, Bian, Chong, Kim, Mallei, Musazzi, Shen, Vincent
04	生化学薬理	稲垣, 甲斐, 笹栗, 松田, Govitrapong, Okamoto, Popoli, Wong	内田信也, 小山 豊, 西堀正洋, Bathgate, Chong, Kim, Mallei, Musazzi, Sun
05	末梢神経薬理 (自律神経・運動神経・局 所麻酔を含む)	稲垣, 上園, 岡村, 若森, Govitrapong	石橋 仁, 磯濱洋一郎, 竹内正吉, 田中芳夫, 松本直樹, 柳田俊彦
06	心血管薬理・血液	安西, 岡村, 笹栗, 筒井, 福永, 渡邊	梅村和夫, 近藤一直, 田中芳夫, 西山 成, 平野勝也, 松本直樹, Bhuiyan, Bian, Han, Satayavivad
07	中枢神経薬理	上園, 福永, 松田, 松本, 若森, Govitrapong, Lawrence, Suh, Wong, Popoli	荒木博陽, 石橋 仁, 岩崎克典, 上野 晋, 香月博志, 葛巻直子, 小手川勤, 小山 豊, 酒井規雄, 千堂年昭, 田熊一敏, 武田泰生, 徳山尚吾, 西堀正洋, 柳田俊彦, Chong, Han, Kim, Mallei, Musazzi, Satayavivad, Shen, Parish, Vincent
08	呼吸器薬理	稲垣, 甲斐	磯濱洋一郎, 木澤靖夫, 田中宏幸, 西堀正洋, 松本直樹, Satayavivad
09	腎薬理	安西, 岡村, 甲斐, 笹栗, 筒井	荒木博陽, 千堂年昭, 西山 成, 松本直樹, 藤田朋恵, Bhuiyan
10	消化器薬理	上園, 笹栗, Okamoto	Satayavivad, 竹内正吉
11	平滑筋薬理	岡村, 笹栗, 筒井	木澤靖夫, 竹内正吉, 田中芳夫, 平野勝也
12	骨・歯科薬理	笹栗, 松本, 若森	大谷啓一, 田熊一敏, 戸荻彰史
13	内分泌薬理	甲斐, 笹栗, 筒井, 福永, Govitrapong	戸荻彰史, 徳山尚吾, 西山 成, 柳田俊彦, Bathgate
14	臨床薬理	安西, 笹栗, 渡邊	荒木博陽, 内田信也, 梅村和夫, 小手川勤, 近藤一直, 千堂年昭, 武田泰生, 徳山尚吾, 坪井正博, 藤田朋恵, 松本直樹
15	免疫薬理・炎症	稲垣, 甲斐, 笹栗, Xu	田中宏幸, 西堀正洋, Chong, Han, Shen, Sun
16	化学療法	上園, 笹栗	武田泰生, 坪井正博, Sun
17	毒科学	Govitrapong	上野 晋, Han, Satayavivad
18	Natural Medicine Materials	稲垣, 上園, 笹栗, 松本, Govitrapong	磯濱洋一郎, 岩崎克典, 坪井正博, 西堀正洋, Satayavivad
19	Stem cell Pharmacology	筒井	
20	Pain pharmacology		
21	Biopharmaceutical pharmacology		
	統計処理		浜田知久馬

研究推進委員会報告

委員長：武田 弘志

委員：赤羽 悟美, 岩崎 克典, 金井 好克, 越川 憲明, 南 雅文, 米田 幸雄

1. 薬理学振興助成事業である平成 27 年度新薬理学セミナーは、広報委員会所管の公開講座担当部会と調整の後、下記の内容で開催することを決定し、理事会に報告した。

(1) 北部会との連携

世話人：服部 裕一（富山大学大学院医学薬学研究部・教授）

日時：平成 27 年 9 月 19 日（土）9:30～（第 66 回北部会開催翌日）

場所：富山国際会議場（富山市）

テーマ：「炎症を基盤病態とする疾病に対する新たな創薬研究への挑戦（仮題）」

講師：（未定）

(2) 西南部会との連携

世話人：乾 誠（山口大学大学院医学系研究科・教授）

開催日：平成 27 年 11 月 21 日（土）13:00～（第 68 回西南部会開催日）

場所：海峡メッセ下関（山口県下関市）

テーマ：「分子の構造・機能を X 線と電子線で見える」

講師：難波 啓一（大阪大学大学院生命機能研究科・教授）

2. 薬理学パンフレットに新しい知見を追加することについては、理事会の継続審議となっていることを踏まえ、理事会の方針決定後に、検討に入ることを決定した。

広報委員会報告

委員長（会誌編集長）：谷内 一彦

委員：荒木 博陽, 尾崎 博, 香月 博志, 川西 徹, ○齊藤亜紀良, 田中 光, 東城 庸介,

○橋本 均, 原 英彰, 三輪 聡一, ○山田 清文, 山田 久陽

（○は会誌副編集長，下線は協力委員）

山田 久陽氏に協力委員を委嘱した。

委員会を 1 回開催し、その他はメール会議により、必要な事項を決定した。

平成 26 年度より、常置委員以外の日本薬理学雑誌（日薬理誌）編集委員及び Journal of Pharmacological Sciences (JPS) 編集委員には 1 期 2 年のみを名誉会員、永年会員推薦の際の功績に組み入れることが決定している。本委員会では山田 久陽氏に適用される。

1. 日薬理誌編集方針等について

1) 日薬理誌各欄の担当を決定した。

2) 「総説」欄は毎号の掲載を目指し、各委員に執筆者の推薦を依頼する。

3) 各欄の企画については担当委員を中心に多くの提案を呼びかける。提案された企画については、各欄担当委員、編集長、副編集長で審議を行う。

4) 非会員からの寄稿に対しては、掲載にあたり、本会への入会を勧める。

2. J-Stage での全文公開について

J-Stage での全文公開は、会員・非会員を問わず発行後 2 ヶ月間の閲覧制限が設けられてきたが、会員には冊子体が配布されるため一般への全文公開は、発行 6 ヶ月後とすることを理事会に提案し、承認された。

3. 学会ホームページについて

1) 前期より会員向け情報の多くをホームページに移行する変更を行ってきた。会員専用サイトにおかれた情報の閲覧には会員 ID の入力が必要であること、閲覧設定期間を過ぎるとアクセスが不可能となるため、「新教授紹介」と「追悼」は日薬理誌掲載に戻すことを決定した。

2) WorldPharm2018 に向けて、英文ホームページの刷新を行う。海外在住の外国籍会員の入会を促進する目的で、英文ホームページからの入会申請、会費のカード決済機能を盛り込んだ英文ホームページの構築を決定した。

4. 執筆の手引きについて

現状に合わない箇所、表現がわかりにくい箇所について改定を行った。平成 27 年 3 月より Letter to the Editor の新欄が設けられ、会誌編集委員会や掲載された記事への意見等の投稿を想定している。

5. 市民公開講座の開催について

平成 26 年度は、第 65 回北部会の木村 純子教授と第 125 回近畿部会の西堀 正洋教授が世話人となり、地方部会開催に合わせて市民公開講座が 2 回開催された。平成 27 年度は 2 部会で開催の予定で予算を申請している。

6. その他

- 1) 平成 27 年より日薬理誌の編集出版業務が中西印刷株式会社に委託先変更された。これまで広報委員会と編集委員会で共用していた journal@pharmacol.or.jp のメールアドレスは委託先変更後、広報委員会専用で使用することを決定した。
- 2) メテオからの自動翻訳サービスの申し出、学術著作権協会の電子化に関する許諾権の委託に関する申し出に対し、対応を検討した。
- 3) 金芳堂日本薬理学会誌出版部の閉鎖に伴い、日薬理誌と JPS の初刊から最新刊までの全冊子体(2セット)を引き取れる大学図書館を探した。保管できる図書館がない場合には平成 27 年 3 月末をめどに廃棄するかどうか決定する予定。

企画教育委員会報告

委員長：金子 周司

委員：池谷 裕二、石井 邦明、石毛久美子、今井由美子、田中 利男、前田 定秋、宮田 篤郎、(森 豊樹)

森 豊樹委員が任期半ばで逝去された。

委員会を 1 回開催し、以下について審議した。

1. 新学術評議員候補者選考の件

定款施行細則第 27 条、第 28 条および新学術評議員選考規定に基づき、平成 27 年度新学術評議員候補者 39 名について慎重かつ厳正に審査を行った。うち 4 名については特例措置を適用した。委員会は 39 名の申請者全員を学術評議員候補者として選定し、理事会および学術評議員会に諮ることとした。

2. 薬理学会振興のための方策について

薬理学会の活性化のための方策として、①2018 年に臨床薬理学会と合同で国際学会を開催するため、この機会を活かし年会共催など中長期にわたる連携を考える、②インパクトファクターの高い JPS 誌の査読を他学会員に依頼し、ほかの関連学会からの投稿を上手に取り込む等の工夫、③基礎医学系学会(生理学会等)に倣って、薬理学教育に学会が積極的にコミットし、薬理学教育の質を高めるとともに看護学等医療教育における薬理学教育の必要性を示す方向性の事業を行う、④賛助会員が薬理学会のメリットを感じるようなサービスをすべき、⑤部会において、学部生を対象にしたポスター発表など発表の敷居を下げる努力をするとともにポスター発表賞等によって奨励を行い、学部生の積極的な取り込みを行う、⑥大学を卒業し、企業・医療機関等に就職した後に退会する若い研究者が多い実態をアンケート等によって分析すべき、⑦SNS を利用して若者が気軽に情報発信や質問ができる場を設ける、等の議論を行った。

3. 「次世代の会」・「ダイバーシティ推進」の支援策について

「次世代の会」および「ダイバーシティ推進」の支援を今後も積極的に行う。

賞等選考委員会報告

委員長：米田 幸雄

委員：赤羽 悟美、井上 敦子、岩本 隆宏、荻田喜代一、斉藤亜紀良、櫻井 隆、武田 泰生、南 雅文

委員会を 1 回開催し、以下について審議した。

1. 第 30 回学術奨励賞候補者の選考

候補者 7 名の推薦書と提出論文について規定に基づく資格審査、研究のオリジナリティー、完成度、実験方法・技術の優秀性、科学的貢献、将来の発展性、薬理学会への貢献(JPS 掲載論文数、過去 3 年間の年会・部会での発表数)の観点から、まず全委員が事前に評価を行った。その際に代表的業績論文の被引用回数ならびに掲載誌のインパクトファクター値を参考資料として配布した。議事においては、規定に基づき選考委員による資格確認を行い、続いて申請資料と評価の集計を基に十分な議論を行った。協議の結果、上位 3 名を受賞候補者とすることを決定し、本委員会は小山 隆太氏、白川 久志氏、村田 幸久氏(50 音順)の 3 名を第 30 回(平成 27 年)学術奨励賞の受賞候補者として理事会に答申した。

2. 学術奨励賞応募規定・申請書式の変更について

学術奨励賞候補者選考において、薬理学会への貢献度評価を高めるために、応募規定や申請書式の変更を理事会に提案することを全会一致で決定した。

3. 平成 27 年度薬理学振興助成事業の選考の報告

申請のあった下記 4 件について審査の結果、本委員会は下記事業の必要性を認め理事会に採択の旨を答申した。

- | | |
|--|-----------------------|
| 1) 新薬理学セミナー2015 | 500,000 円 (研究推進委員会申請) |
| 2) 市民公開講座 | 1,200,000 円 (広報委員会申請) |
| 3) ダイバーシティ推進セミナー | 500,000 円 (企画教育委員会申請) |
| 4) Guide to Pharmacology データベース講習会及び動画配信 | 500,000 円 (国際対応担当申請) |

4. 各種助成団体等への本会としての推薦

- 1) 文部科学大臣表彰若手科学者賞：1 名を学会推薦
- 2) 東レ科学技術研究助成：候補者 2 名を学会推薦。津田 誠 九州大学・院薬・教授 (採択)
- 3) 第 46 回 (2014 年度) 内藤記念海外学者招聘助成：今泉 祐治 第 88 回年会長を推薦 (採択)

5. 年会優秀発表賞審査員の選考

同賞の審査員及び代表審査員を指名し、選考方法を決定する件については、今泉 祐治年会長に一任した。

年会学術企画委員会報告

委員長：宮田 篤郎

委員：池谷 裕二, 今井由美子, 金子 周司, 武田 弘志, (森 豊樹), 米田 幸雄

アドバイザー：石井 邦雄, 今泉 祐治

平成 26 年度年会学術企画委員会メンバーとして、第 88 回年会長 今泉祐治先生、第 89 回年会長 石井邦雄先生がオブザーバーとして参加した。

平成 26 年度の本委員会は、平成 26 年 8 月 26 日に第 1 回委員会を開催、その後メール会議で審議等を行っており、現在までに以下の項目が決定している。

1. 第 88 回年会公募シンポジウム採択について

第 88 回年会長今泉祐治先生から企画シンポジウム 9 題、ワークショップ 4 題、公募シンポジウム 51 題の応募があり、本委員会にこれら公募シンポジウムの採択可否について諮問があり、本委員会として応募順の一つずつ全員の採点表を基に選定作業を進めた結果、企画シンポジウム及びワークショップはそのまま全部採択となった。公募シンポジウムについては、39 がそのまま採択されたが、7 つをワークショップへ、5 つをミニシンポジウムへ振り分けることにより応募のあったすべての演題の採択に問題ない旨を回答した。

2. 以下の他学会との共催シンポジウム等、すなわち、A) 日本臨床薬理学会との共催シンポジウム (日本薬理学会年会での開催分)、C) 日本生理学会との共催シンポジウム、及び D) 企業企画シンポジウム、を年会学術企画委員会提案のシンポジウムとして今泉祐治第 88 回年会長に提示し、プログラムに採用して頂いた。尚、日本毒性学会との共催シンポジウムについては、連絡がついていなかったことから、今回見送られ来年度開催に向けて日本毒性学会との情報交換を進めていくこととした。

A) 日本臨床薬理学会との共催シンポジウム (日本薬理学会年会での開催)

1) オーガナイザー：

安西 尚彦 先生 (獨協医大・薬理：日本薬理学会側)

笹栗 俊之 先生 (九州大・院・医学研究院・臨床薬理：日本臨床薬理学会側)

2) テーマ：「痛風・尿酸代謝研究 最近の進歩：From Bench to Bedside」

B) 日本臨床薬理学会との共催シンポジウム (日本臨床薬理学会年会での開催)

1) オーガナイザー：

岩本 隆宏 先生 (福岡大・医・薬理：日本薬理学会)

安西 尚彦 先生 (獨協医大・薬理：日本臨床薬理学会)

2) テーマ：「創薬応用を目指すチャネル・トランスポーター研究最前線」

C) 日本薬理学会・日本生理学会 合同シンポジウム

1) オーガナイザー：

中山 博之 先生 (大阪大・院・薬学研究科・臨床薬効解析：日本薬理学会)

西田 基宏 先生 (生理研・生体情報・心循環シグナル：日本生理学会)

2) テーマ：「心血管 TRP チャネル研究の最前線」

D) 企画シンポジウム

本年度も以下の3シンポジウムが企画された。

- I) 1) オーガナイザー：
赤池 昭紀 (名古屋大学大学院創薬科学研究科 細胞薬効解析学)
大野 行弘 (大阪薬科大学 薬学部)
2) テーマ：「創薬におけるオープンイノベーション」
- II) 1) オーガナイザー：
川西 徹 (国立医薬品食品衛生研究所)
2) テーマ：「健康・医療戦略推進法および日本医療研究開発機構設立と薬理学研究」
- III) 1) オーガナイザー：
塚本 桂 (岐阜薬科大学 グローバル・レギュラトリー・サイエンス寄附講座)
宇山 佳明 (独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 安全第一部)
2) テーマ：「国際化に対応した薬理学におけるレギュラトリーサイエンス」

3. 薬理学会活性化の方策が飯野理事長を中心に練られつつあり、年会学術企画委員会としても、年会長と連携して薬理学会年会のシンポジウムの基本方針を定め、シンポジウム企画を行うことが求められるようになることから、取り上げるべきトピック等吟味すべき具体的内容、形式について、メール会議によって意見交換を行っている。

追記：本委員会委員の森豊樹先生が昨年12月に急逝されました。森先生には、大塚製薬にご勤務のこともあり本委員会においても製薬企業からの意見収集にご尽力頂くなど大変貢献頂きました。ここに先生のご冥福をお祈りする次第です。

江橋賞選考委員会報告

委員長：三品 昌美

委員：岸本 忠三、永井 良三、樋口 輝彦、藤田 敏郎、柳田 敏雄 (以上、学会外委員)
井上 和秀、岩尾 洋、鍋島 俊隆、元村 成

平成26年11月7日に委員会を開催した。
学会内委員1名の交替があった。

1. 規則の確認と議決方法について

第8回江橋節郎賞の候補者として3名が推薦された。選考委員会は、選考にあたり江橋節郎賞規定及び関連する諸規則の事前判断事項の確認を行った。

議決方法は、予め配布した資料による各委員の事前審査及び選考委員会の意見交換を十分考量し、最終的に委員の無記名投票で最終推薦候補者を決定することとした。

2. 受賞候補者選考の経緯と選考結果について

予め委員長が指名した委員により各候補者の研究内容の経過とその成果の概要が紹介された。その後、3名の候補者の学問的レベル、独自性及び影響力の大きさ等について委員相互の意見交換を行った。さらに、3候補の比較に関して審議を重ね、候補者を2名に絞り込み、最終的に議長を含む出席委員全員の無記名投票による採決を行った結果、選考委員会は貝淵 弘三氏を第8回江橋節郎賞受賞候補者として理事会に推薦することを決定した。

3. 受賞候補者の研究について

貝淵氏は、RhoファミリーのGTP結合蛋白質の標的蛋白質を同定し、細胞の収縮、接着、極性形成を制御するシグナル伝達機構を明らかにした。さらにRho-キナーゼの脳内基質としてCRMP-2を同定し、神経細胞の軸索形成すなわち極性形成の機構を明らかにした。これらの研究成果は種々の疾患の病因の理解や診断法、治療法の開発などに不可欠な知見を提供している。

4. 推薦、選考の在り方について

江橋先生が生命科学の広い分野で業績を残されたことに鑑み、また、本賞を発展させることを念頭に、外部委員より以下の意見が出された。

- 1) 若手も含め優秀な候補者を増やすために、「日本薬理学会会員歴10年以上」の制約は規定から除いてはどうか。会員に限定せず、独創的、飛躍的な業績をあげ、薬理学の進歩に大きく貢献した研究者も授賞の対象としてはどうか。
- 2) 江橋先生は日本生物物理学会でも活躍されたことから、両学会の連携を検討してはどうか。

平成26年度の選考をもって外部委員の岸本 忠三氏、永井 良三氏、学会内委員の三品 昌美氏、鍋島 俊隆氏がそれぞれ選考委員の任期を終了した。

利益相反 (COI) 委員会報告

委員長：中谷 晴昭

委員：伊藤 芳久, 大熊誠太郎, 片岡 泰文, 鈴木 勉, 玉置 俊晃, 服部 裕一

本年度は委員会を2回開催した。

1. 利益相反 (COI) 申告書の審査について

役員等 (理事会構成員, 年会長, 部会長等), 日本薬理学雑誌の筆頭著者, 事務局職員から提出された利益相反 (COI) 申告書の審査を行った。企業より研究費補助を受けていること, 及び株の保有についての報告が数件あったが, COI 規則に照らして, 特段の問題は認められなかった。編集委員1名より, 企業から研究費の供与を受けているとの申告があり, 本件対応として, 研究費の供与を行っている企業所属の研究者が投稿する論文のレフェリーから当該委員を外すことを編集委員長に申し入れた。

2. 利益相反周知について

日本医学会より, 会員への利益相反についての周知依頼と, 前期総務委員会からの申し送り事項を受けて, 第88回日本薬理学会年会で利益相反 (COI)・研究者倫理についてのランチョンセミナーを開催することを決定した。

3. その他

日本医学会のCOIマネジメントに関するガイドライン改定に合わせて, 本会規則の必要な改定を行う。

【ダイバーシティの取組みについて】

ダイバーシティ推進担当理事・企画教育委員会委員：今井由美子

- 第88回日本薬理学会年会で, 講師にメイヨークリニック医学部分子医療部門の池田 靖弘博士を招へいし, 薬理学振興助成事業としてダイバーシティ推進ランチョンセミナーを開催する。テーマは「日本人が海外でラボを運営するにあって; ダイバーシティとサイエンス」である。
- 平成26年9月26日に日本医師会館で, 「大学医学部・医学会女性医師支援担当者連絡会一よりよい男女共同参画を目指して」が開催され, 本会を代表して日本大学薬学部の石毛久美子教授, 京都府立医科大学医学部の矢部 千尋教授の2名が参加した。
医師会における女性医師支援のこれまでの取組みと事例の発表があり, 連絡会のアンケート調査では, 1) 大学間でのワークバランスに対する意識の差が大きいこと, 2) 医学会分科会の過半数でいまだ女性医師支援・男女共同参画推進に関する内部組織が無いことが示されている。
本会はダイバーシティ推進を恒常的な取組みとすることが前期に決定しており, 連絡会での情報は今後の本会での活動に活かされるとのことが報告された。
- 各研究分野, 企業等で活躍している研究者の進路選択, 悩み, 解決への導き方について, 年会等で講演してほしいとの若手研究者の要望もあり, 若手キャリアパス支援として, これらの声に応える取組みを考える。

【国際対応報告】

国際対応担当・日本学術会議 IUPHAR 分科会委員長：飯野 正光

以下の2委員会の合同会議を平成26年8月14日に開催するとともに, メール会議と小委員会を適宜開催し, 日本薬理学会理事会とともに国際対応にあたった。

日本学術会議 IUPHAR 分科会：飯野 正光 (委員長), 赤池 昭紀 (副委員長), 尾崎 博, 三品 昌美, 松木 則夫
WCP2018 組織委員会： 成宮 周 (会長), 川合 眞一 (副会長), 大橋 京一, 渡邊 裕司, 熊谷 雄治, 山崎 力, 橋本 均, および IUPHAR 分科会委員

1. WCP2014について

国際薬理学臨床薬理学会議 (WCP2014) が平成26年7月13~18日に南アフリカ・ケープタウン市で開催された。参加者数は1,700~1,800名程で, うち日本からの参加者数は約70名であった。日本からは, 井上和秀教授, 貝淵弘三教授, 金井好克教授の3名がプレナリー・レクチャーを行うとともに, 他2件の日本薬理学会推薦シンポジウムが行われた。

7月15日開催のIUPHAR総会における選挙の結果、グラスゴー市(スコットランド)がWCP2022開催地として決定した。また、同総会において飯野教授が2014～2018年度IUPHAR Second Vice Presidentに選任された。WCP2014に先行して7月13日にケープタウン市で開催されたIUPHAR Education Section総会での選挙により、宮田篤郎教授が同Sectionの2014～2018年度Councilorに選出された。

2. WCP2018の準備状況

WCP2014(ケープタウン)会期中、成宮周教授(WCP2018会長)と飯野正光教授(WCP2018事務総長)は、IUPHAR総会および閉会式においてWCP2018の説明を行うとともに、7月17日に開催されたInternational Advisory Board会議においてWCP2018の準備状況について説明を行い、同Board委員からの助言を得た。また、展示会場にWCP2018特設ブースを設置して宣伝活動を行った。

WCP2014の開催状況を視察した結果を受けて、平成26年8月14日に組織委員会を開催して、WCP2018開催計画をアップデートした。

企業との連携を深めるため、日本製薬工業協会からWCP2018組織委員の選出を依頼して承認された。

3. IUPHAR Nomenclature Committee (NC-IUPHAR) について

NC-IUPHARには、平成24年から貝淵弘三教授(キナーゼ)、金井好克教授(トランスポーター)が委員として参加している。免疫薬理学部門の新設が2014年7月16日開催のNC-IUPHAR委員会で決定され、日本から委員の選出が要請されたのを受け、大阪大学石井優教授を推薦して承認された。また、NC-IUPHARのデータベース(Guide to Pharmacology)は会員に有益な情報であり、その利用方法について、データベースキュレーターのAdam Pawson氏の来日を要請して第88回年会(名古屋:今泉会長)で講習会を行うことが理事会で承認された。

4. ASCEPT(オーストラリア・ニュージーランド薬理学会)との連携

日本薬理学会とASCEPTとの年会における講師交換プログラムにより、第88回年会に、Monash大学Chris Sobey准教授を講師として招くこととなった。

5. ASPET(米国薬理学会)との連携

本会とASPETとの連携を強化するため、ASCEPTとの講師相互派遣プログラムを踏襲した相互交流事業を、平成28年度の年会から本会とASPETの間で開始することを理事会に提案し承認された。

6. 中国・韓国薬理学会との連携

両国との学問的な交流を深めるため、今年度は韓国薬理学会に講師派遣を依頼し、Chungnam大学Gang Min Hur教授が第88回年会において特別講演を行うこととなった。

7. APFP(Asia Pacific Federation of Pharmacologist)との連携

第13回APFP会議が平成28年1月31日～2月3日の予定でバンコク市(タイ)において開催される。

IX. 新学術評議員一覧

平成27年度一覧 (39名)

氏名	所属機関	〒 / 所在地	TEL
安達 一典 ADACHI, Kazunori	明海大学歯学部 病態診断治療学・薬理	350-0283 埼玉県坂戸市けやき台1-1	049-279-2759
有賀 純 ARUGA, Jun	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 医科薬理	852-8523 長崎市坂本1-12-4	095-819-7043
伊藤 崇志 ITO, Takashi	兵庫医療大学薬学部 医療薬学	650-8530 兵庫県神戸市中央区港島1-3-6	078-304-3168
今井 利安 IMAI, Toshiyasu	日本ケミファ(株) 創薬研究所	341-0005 埼玉県三郷市彦川戸1-22-1	048-952-4311
今村 武史 IMAMURA, Takeshi	滋賀医科大学医学部 薬理	520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町	077-548-2182
内田 仁司 UCHIDA, Hitoshi	新潟大学脳研究所 細胞神経生物	951-8585 新潟市中央区旭町通1-757	025-227-0620
江角 悟 ESUMI, Satoru	岡山大学病院 薬剤部	700-8558 岡山市北区鹿田町2-5-1	086-235-7650
大西 正俊 OHNISHI, Masatoshi	福山大学薬学部 薬物治療	729-0292 広島県福山市学園町1番地三蔵985	084-936-2112
長田 暢弘 OSADA, Nobuhiro	トーアエイヨー(株) 経営企画部事業開発課	104-0032 東京都中央区八丁堀3-10-6	03-5542-8807
小野 克重 ONO, Katsushige	大分大学医学部 病態生理	879-5593 大分県由布市挾間町医大ヶ丘1-1	097-586-5652
小野木弘志 ONOGI, Hiroshi	東北福祉大学健康科学部 保健看護	981-8522 宮城県仙台市青葉区国見1-8-1	022-233-3111
笠原 正貴 KASAHARA, Masataka	東京歯科大学歯学部 薬理	101-0061 東京都千代田区三崎町2-1-14 東京歯科大学新館	03-6380-9566
木平 孝高 KIHIRA, Yoshitaka	徳島大学大学院医歯薬学研究部 薬理	770-8503 徳島市蔵本町3-18-15	088-633-7061
小林 直彦 KOBAYASHI, Naohiko	小林内科クリニック	321-0201 栃木県下都賀郡壬生町安塚西南原 793-1	0282-86-8039
小原 幸 KOBARA, Miyuki	京都薬科大学病態薬科学系 臨床薬理	607-8414 京都市山科区御陵中内町5	075-595-4724
小山 隆太 KOYAMA, RYUTA	東京大学大学院薬学系研究科 薬品作用	113-0033 東京都文京区本郷7-3-1	03-5841-4782
鹿内 浩樹 SHIKANAI, Hiroki	北海道医療大学薬学部 薬理	061-0293 北海道石狩郡当別町金沢1757	0133-23-1254
高見 正道 TAKAMI, Masamichi	昭和大学歯学部 歯科薬理	142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8	03-3784-8174
武谷 立 TAKEYA, Ryu	宮崎大学医学部 薬理	889-1692 宮崎市清武町木原5200	0985-85-1786

田中健一郎 TANAKA, Ken-ichiro	慶應義塾大学薬学部 分析科学	105-8512 東京都港区芝公園1-5-30	03-5400-2620
田中 茂 TANAKA Shigeru	広島大学大学院医歯薬保健学研究院 神経薬理	734-8551 広島市南区霞1-2-3	082-257-5142
坪田 真帆 TSUBOTA, Maho	近畿大学薬学部医療薬学科 病態薬理	577-8502 東大阪市小若江3-4-1 39号館9階N903	06-4307-3634
常田 洋平 TOKITA, Yohei	(株)ソムラ 製品戦略本部領域推進部	107-8521 東京都港区赤坂2-17-11	03-6361-7188
富田太一郎 TOMIDA, Taichiro	東邦大学医学部 生理学講座・統合生理	143-8540 東京都大田区大森西5-21-16	03-3762-4151
中瀬古寛子 NAKASEKO, Hiroko	東邦大学医学部 薬理	143-8540 東京都大田区大森西5-21-16	03-3762-4151
西田 弥生 NISHIDA, Yayoi	日本大学医学部 臨床試験研究センター	173-8610 東京都板橋区大谷口上町30-1	03-3972-8111
林 秀樹 HAYASHI, Hideki	東京薬科大学薬学部 応用生化学	192-0392 東京都八王子市堀之内1432-1	042-676-5760
藤田 智史 FUJITA, Satoshi	日本大学歯学部 薬理	101-8310 東京都千代田区神田駿河台1-8-13	03-3219-8126
藤田 隆司 FUJITA, Takashi	立命館大学薬学部 分子薬効毒性	525-8577 滋賀県草津市野路東 1-1-1	077-561-2848
細野加奈子 HOSONO, Kanako	北里大学医学部 薬理	228-8555 神奈川県相模原市南区北里1-15-1	042-778-9113
益岡 尚由 MASUOKA, Takayoshi	金沢医科大学医学部 薬理	920-0293 石川県河北郡内灘町字大学1-1	076-286-2211
松元 一明 MATSUMOTO, Kazuaki	慶應義塾大学薬学部 実務薬学	105-8512 東京都港区芝公園1-5-30	03-5400-2656
松本みさき MATSUMOTO, Misaki	京都府立医科大学大学院医学研究科 病態分子薬理	602-8566 京都市上京区河原町通広小路上る 梶井町465	075-251-5332
丸田 豊明 MARUTA, Toyoaki	宮崎大学医学部 病態解析医学	889-1692 宮崎市清武町木原5200	0985-85-9357
谷田部淳一 YATABE, Junichi	東京女子医科大学 高血圧・内分泌内科	162-8666 東京都新宿区河田町8-1	03-3353-8111
谷田部 緑 YATABE, Midori	福島県立医科大学医学部 薬理	960-1295 福島市光が丘1	024-547-1153
山口 重樹 YAMAGUCHI, Shigeki	獨協医科大学医学部 麻酔科	321-0293 栃木県下都賀郡壬生町大字北小林 880	0282-86-1111
山田 久陽 YAMADA, Hisaharu	大正製薬(株) 医療事業部門シニアスペシャリスト室	331-9530 さいたま市北区吉野町1-403	048-669-3073
吉川 雄朗 YOSHIKAWA, Takeo	東北大学大学院医学系研究科 機能薬理	980-8575 宮城県仙台市青葉区星陵町2-1	022-717-8058